

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科午前コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員					
授業科目名		保険体育Ⅱ(放送大学)		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	放送大学	
〔授業の学習内容と心構え〕													
<p>本科目は、放送大学における「運動と健康」と内容が重複しており、当該科目を履修・修得することで単位互換が可能です。そのため、本養成課程内での開講は行わず、放送大学での履修をもって単位認定といたします。</p>													
〔到達目標〕													
<p>運動に関わるヒトの機能や運動・スポーツに対する身体の応答や適応について、運動生理学的な基礎知識を習得するとともに、運動・スポーツを計画・実践する基礎を身につけることを目指す。</p>													
〔使用教材、参考文献等〕													
放送大学テキスト													
回	〔授業単元〕		到達目標(できるようになること)										
1	生体と恒常性		細胞の構造と機能について解説するとともに、体内環境を適切に保つ生体恒常性について概説する。										
2	栄養とエネルギー代謝		生命活動の直接的なエネルギーであるアデノシン三リン酸の合成経路、およびエネルギー供給系について概説する。										
3	骨格筋の構造と働き		運動に携わる骨格筋の基本的な構造とその働き、および筋肥大と筋萎縮について概説する。										
4	神経系の構造と働き		神経系の構造と機能、および運動に対する神経系の役割などについて概説する。										
5	呼吸器系の構造と働き		呼吸器系の構造と機能、および運動への適応について概説する。										
6	循環器系の構造と働き		循環器系の構造と機能、および運動への適応について概説する。										
7	運藤と環境		暑熱や寒冷、水中、そして、高地環境における運動時の生理学的応答や適応について概説する。										
8	トレーニングの計画と実際1		トレーニングの原理・原則、およびトレーニング実施上の注意点について概説する。										
9	トレーニングの計画と実際1		体力要素別に各種トレーニングについて概説する。										
10	運動と発育・発達		子どもの健全な発育発達を促す身体活動の在り方について概説する。										
11	子供の体力・運動能力		過去と現在の比較、諸外国との相違を通して日本の子どもの体力・運動能力の現状について解説するとともに、何が違いに影響を及ぼしているのか、そして子どもにおける体力・運動能力の意義について概説する。										
12	障害者とスポーツ		障害のある人たちとスポーツとの関わりについての現状と課題を学ぶ。また、パラリンピックをはじめとする障害者スポーツの競技大会等を紹介し、それらが障害のある人たちや社会にもたらす影響について概説する。										
13	特別支援教育と学校教育		特別支援学校(知的障害)の保健体育科の目標や指導内容、指導計画等を概説し、障害のある子どもへの体育・スポーツ指導の実際について理解することを目指す。										
14	生活習慣病と運動		身体活動量の低下が多くの生活習慣病のリスクとなり、死亡率を上昇させる。年齢に応じて、運動や生活活動を増やすことが、全身持久力を向上し、死亡率や生活習慣病予防につながることを理解する。										
15	運動処方		安全に身体活動を実施する上で、留意すべき症状、疾患、状態、環境などをふまえて、勧められる身体活動を理解し、推奨される身体活動の頻度、強度、時間、種類、活動量、漸進性すなわち運動処方(FITT-VP)を理解する。										
〔成績評価について〕				〔特記事項・授業時間外における学習〕									
放送大学のオンライン試験にて評価を行う。													

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科午前コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			放送大学
授業科目名		栄養学(放送大学)		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
本科目は、放送大学における「食と健康」と内容が重複しており、当該科目を履修・修得することで単位互換が可能です。そのため、本養成課程内での開講は行わず、放送大学での履修をもって単位認定といたします。											
〔到達目標〕											
食品には、栄養機能、嗜好的機能、生体調節機能の三つの機能がある。いずれの機能も、健康を維持する上で重要な働きを有している。これら食品の持つ機能を理解し、個人だけでなく社会全体の食生活を考える視点を養う。											
〔使用教材、参考文献等〕											
放送大学テキスト											
回	〔授業単元〕		到達目標(できるようになること)								
1	食と健康の科学		食品は栄養面での機能(一次機能)、嗜好面での機能(二次機能)と疾病発症のリスクを低減する機能(三次機能)を持つ。ヒトは農業生産活動を介して自らの食を作り出し、環境に適応して人口を増大させ、さらに寿命を延伸させてきた。そのような食とヒトの強い繋がりに、食品の価値について改めて学ぶ。								
2	糖質(1)食品に含まれる糖質・消化・吸収		糖質(炭水化物)はヒトが摂取する栄養素の中で最も摂取量の多い栄養素であり、主たるエネルギー供給源、生体分子の構成要素として重要である。糖質は単糖類、少糖類(オリゴ糖)、多糖類に分類される。それぞれの構造と化学特性、消化・吸収過程、糖質の生体内での機能について解説する。								
3	脂質(1)食品に含まれる脂質・消化・吸収		脂質はエネルギー効率の最も高い栄養素である。水に不溶で、有機溶媒に溶解する特徴をもつ。脂質には中性脂肪、リン脂質、コレステロールなどがある。それらの構造と化学特性を解説する。また、その消化・吸収機構について講義を行う。								
4	タンパク質(1)食品に含まれるタンパク質・消化・吸収		タンパク質は約20種類のアミノ酸がペプチド結合してできた鎖状の物質である。食品として摂取されたタンパク質の栄養価は構成するアミノ酸の種類によって決まるが、分解途中にできるペプチドにも固有の生理活性が報告されている。食品タンパク質中のさまざまなタンパク質の構造、それらの消化・吸収過程、各種アミノ酸の性質などを基盤に、食品タンパク質の栄養学的、食品学的な特性を解説する。								
5	タンパク質(2)生体内の代謝・その調節・機能		食品タンパク質は様々な経路で代謝される。代謝経路は多くの酵素によって構成されており、それぞれの活性が多段階で制御され、一連の経路を形成している。食品タンパク質が分解されて最終的に生成するアミノ酸は、タンパク質合成の材料になるだけでなく、ホルモンなど生理活性物質の原料としても利用される。またアミノ酸独自の生理機能も知られている。ここではタンパク質代謝経路とその調節機構、タンパク質・アミノ酸の機能について解説する。								
6	糖質(2)生体内の代謝・その調節・機能		食品中の糖質はエネルギー源として作用する以外にも生体分子の構成要素として作用する。また余剰に摂取された糖質の一部は脂質に代謝され蓄積され、これが肥満の原因ともなる。さらに糖質中の一部の糖は生体構成要素としても作用する。ここでは糖質の代謝経路とその調節機構を解説すると同時に、生体内で糖質が発揮する機能についても紹介する。								
7	脂質(2)生体内の代謝・その調節・機能		脂質の中でトリグリセリドはエネルギー源として脂肪組織に蓄えられる。これが過剰になった状態が肥満であり、多くの疾患の原因となる。また、コレステロールが動脈壁に過剰に蓄積すると動脈硬化の原因となる。このように脂質の代謝調節の乱れが健康を損なう原因となる。脂質代謝の全体像を解説する。								
8	ビタミン		ビタミンは体内では合成できず、食物から摂取する必要がある微量栄養素である。ビタミンは、水溶性と脂溶性の化合物に分類される。いくつかのビタミンは欠乏症とその原因物質の究明の過程で発見された。それぞれのビタミンが担う生理機能と、生命の維持・調節の作用機序について解説する。								
9	ミネラル		ミネラルには骨や歯の成分として身体を構成するカルシウムや、鉄のようにヘモグロビンなどの有機化合物の構成成分として存在するものがある。また、酵素反応の賦活剤、生理活性物質の構成成分、体液のpHや浸透圧に関与するなど、生体機能の調節にも関与する。ミネラルの吸収機構、生体内での機能と摂取基準について解説する。								

10	微量非栄養素	食品に含まれる微量非栄養素の多くは食品の色を決定し、味・香りをもたらず成分として機能している。最近の研究により、これら成分が健康維持に寄与することも明らかにされている。微量非栄養素の構造、機能について講義する。
11	味覚	食物の消化・吸収の第一段階は、口腔内消化であり、味覚と食感によって摂取すべきものかどうかを判断する。特に味覚は、おいしさを決定する重要な要素である。味覚の仕組みや味物質などについて学び、味覚と健康の関連について考える。
12	食と免疫	免疫系は生体防御の中心的な役割を担うシステムであり、骨髄由来の好中球・単球などの細胞群と胸腺などのリンパ組織由来のリンパ球などから構成されている。ヒトのリンパ球の半数以上は腸管に存在すると言われており、その増殖分化に腸内の環境が大きく関与する。したがって腸内細菌とともに食物の免疫細胞の機能等に与える影響が大きいことも想像に難くない。本講義では免疫系の基本を学ぶとともに、免疫システムの形成・維持における食物の関わりを学ぶ。
13	食物アレルギー	近年の食を含む生活習慣の変化は生活習慣病の増加のみでなく、食そのものに対するアレルギーの増加にも繋がっている。こどもの食物アレルギーのもつ社会的インパクトは非常に大きい。最近では成人でも食物アレルギーの増加が明らかにされている。本講義では、食物アレルギーの病態・治療・予防などについて学ぶ。
14	食と生活習慣病	最近の研究から、生活習慣病は慢性の炎症がその基本にあることが明らかになってきている。この慢性炎症には腸内細菌叢の偏りなどが大きく関与することも判明してきている。本講義では食物と腸内細菌叢の構成との関連も含めて、食と慢性炎症・生活習慣病の関係についての現在の知識を整理・学習する。
15	食と高齢社会	日本は今世紀半ばに人口の約40%が65歳以上になる超高齢社会を迎える。介護を必要としないで日常生活が送れる健康寿命の延伸が必要である。運動・認知機能の維持に加え、食生活も重要な要因である。咀嚼・嚥下機能と栄養、口腔内刺激と脳機能との関連などをとりあげる。
〔成績評価について〕		〔特記事項・授業時間外における学習〕
放送大学のオンライン試験にて評価を行う。		

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
	生理学Ⅱ		今井 紀代子							

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、医療の基礎となる生理学のうち、内分泌・生体の防御機構・体温調節を習得する授業を行う。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講して欲しい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

医学の基礎となる生理学の知識を習得する。
 身体の正常な働きを説明できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

生理学(医歯薬出版)、配布資料

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第8章 内分泌 A. ホルモンの特徴	内分泌腺を理解できる。 ホルモンの性質、作用機序、分泌調節を理解できる。
2	第8章 B. ホルモンの種類とその働き (視床下部ホルモン～下垂体ホルモン)	視床下部～下垂体から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。
3	第8章 B. ホルモンの種類とその働き (甲状腺ホルモン～副腎髄質ホルモン)	甲状腺～副腎髄質から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。
4	第8章 B. ホルモンの種類とその働き (副腎皮質ホルモン～性腺ホルモン)	副腎皮質～性腺から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。
5	第8章 B. ホルモンの種類とその働き (その他のホルモン)	内分泌器官以外から分泌されるホルモンがわかる。
6	第6章 体温 A. 体温調節～B. 体熱の産生と放散 a. 熱産生	体温の一般、熱産生について理解できる。
7	中間テスト	テストにより効果測定、理解度の把握。
8	テスト返却・解説	テストの解説。間違えたところの復習。
9	第6章 B. 体熱の産生と放散 b. 熱放散～D. 体温調節の障害	熱放散・発汗・体温調節の障害について理解できる。
10	第14章 生体の防御機構 A. 生体の防御機構～	非特異的・特異的防御機構、白血球の働きが理解できる。
11	第14章 B. 免疫反応～ 第15章 身体活動の協調 A. 生体の適応～B. 恒常性維持	免疫反応および生体が環境に順応・適応する仕組み、ホメオスタシス機構について理解できる。
12	第15章 C. バイオリズム 第6・14・15章の復習	バイオリズムについて理解できる。 苦手部分を確認する。
13	これまでの総復習	内分泌を含め、これまでの内容を復習し、苦手部分を理解する。
14	期末テスト	テストにより効果測定、理解度の把握。
15	テスト返却・解説	テストの解説。

〔成績評価について〕

評価は定期試験(中間・期末テスト)により行う。基本的には筆記試験で、中間テスト(40点)、期末テスト(60点)の合計100点で評価する。小テストを実施し、中間・期末テストに加算する。期末テストには中間テストの内容も含まれる。評価は学則規定に準ずる。
 100点満点中で60点未満の者は再試験を1度実施する。(再試験は中間・期末の全ての範囲で実施する)再試験は100点満点で60点以上の場合でも評価は60点扱いとする。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

プリント(またはデータ)を中心に授業を行うので、プリントの重要項目を中心に全体的な流れをつかむことが大切である。メモを取るような習慣をつけ、自学習に役立てて欲しい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	解剖生理学Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
柏崎 雅大・酒井 大輝										

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、基礎医学である解剖学、及び生理学を習得する授業を行う。解剖学では生殖器系、感覚器系について、生理学では筋、運動についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

解剖学:生殖器の構造、特殊感覚の構造と伝導路について理解し、自ら要点を整理することができる。生理学:筋の機能、運動の仕組みについての知識を習得し、自ら要点を整理することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学・生理学(医歯薬出版)、イラスト解剖学、病気が見える

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	解剖学 第6章 生殖器:男性生殖器	男性生殖器の構造について理解することができる。
2	解剖学 第6章 生殖器:女性生殖器	女性生殖器の構造について理解することができる。
3	解剖学 第6章 生殖器:受精と発生	受精と発生について理解することができる。
4	生殖器確認試験 解剖学 第9章 感覚器:視覚器	確認試験により、自分の実力を確認することができる。視覚器の構造について理解することができる。
5	解剖学 第9章 感覚器:平衡聴覚器	平衡聴覚器の構造について理解することができる。
6	解剖学 第9章 感覚器:味覚・嗅覚器	嗅覚器・味覚器の構造について理解することができる。
7	感覚器確認試験 授業範囲復習	確認試験により、自分の実力を確認することができる。復習を行い、試験の準備をすることができる。
8	生理学 第13章 感覚(感覚の分類～体性感覚)	感覚の分類、体性感覚の機能を理解することができる。
9	生理学 第13章 感覚(内臓感覚～痛覚)	内臓感覚、痛覚の機能を理解することができる。
10	生理学 第9章 生殖・成長と老化(生殖)	人の生殖機能について理解することができる。
11	生理学 第9章 生殖・成長と老化(成長, 老化) 生理学 第13章 感覚(特殊感覚:味覚, 嗅覚)	人の成長と老化における一般的変化を理解することができる。味覚器、嗅覚器の機能について理解することができる。
12	生理学 第13章 感覚(特殊感覚:聴覚)□	平衡聴覚器の機能について理解することができる。
13	生理学 第13章 感覚(特殊感覚:視覚)□	視覚器の機能について理解することができる。
14	生理学 第9章, 第13章 まとめと確認テスト	感覚および生殖・成長と老化の要点を振り返り、理解度を確認できる。
15	期末テスト	テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。

〔成績評価について〕

評価はFormsと筆記試験で行う。Formsは確認テスト4回(40点分)、筆記試験(60点分)の合計100点で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	2	開講区分	担当教員				
授業科目名	運動学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

~~治療院勤務、出張施術、トレーナー帯同を経験し、高齢者・学生からアスリート・アーティストまで幅広く対応している教員が、臨床から得た経験を基に臨床に必要な運動学の知識、資格取得後に必要な視点や思考を伝えていく。現場で生きる事を伝えていきたいので積極的に質問等をして参加してほしい。~~

〔到達目標〕

運動学がどういったものかを体感し、理解することで、知識だけではなく実際に使っていけるようになること。

〔使用教材、参考文献等〕

新版リハビリテーション医学(文光堂)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	バイオメカニクス、機能解剖学(関節、関節運動)	関節運動がなぜ起こるのか、関節の種類によってどのような動きをするかを理解する。
2	機能解剖学(筋張力、脊柱・体幹)	筋収縮の種類を理解する。脊柱の構造や特徴を理解する。
3	小テスト、機能解剖学(上肢)	上肢各所の構造や特徴を理解する。
4	機能解剖学(下肢)	下肢各所の構造や特徴を理解する。
5	確認テスト 解説	現時点での理解度、習得できていないところを把握し、理解を深める。
6	運動発達	運動発達の過程、原始反射・姿勢反応を理解する。
7	姿勢抑制	姿勢保持に必要な要素を理解する。
8	歩行・運動学習	正常歩行を理解することで、異常歩行を見つけることができるようになること。
9	期末テスト 解説	現時点での理解度、習得できていないところを把握し、理解を深める。
10	実習①呼吸	呼吸の観察の仕方、東洋医学的な視点を心得る。
11	実習②呼吸評価、実践	呼吸と姿勢の繋がりをイメージできるようになる。
12	実習③	運動学を体感し、実践できるようになる。
13	実習④	運動学を体感し、実践できるようになる。
14	実習⑤	運動学を体感し、実践できるようになる。
15	実習⑥	運動学を体感し、実践できるようになる。

〔成績評価について〕

”評価は試験と小テストとレポートで行う。小テスト(10点)+確認テスト(20点)+期末試験(40点)+レポート課題(30点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。”□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。実技は必ず参加する事。□

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	病理学概論		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
櫻井 恵司										

〔授業の学習内容と心構え〕

鍼灸マッサージ師、NSCA-CPT/CSCSの資格を持ち、20年以上教育に携わる開業鍼灸師マッサージ師が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業であるため、復習と予習を行って授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

病因、循環障害、病変、炎症、腫瘍、免疫、先天性異常の病態について理解し、自ら要点を整理し、国家試験レベルの知識を得ることを目的とする。

各章毎に配布するレジュメと国家試験過去問題を使用。
 病理学概論【第2版】公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第1章 病理学とは 第2章 疾病についての基本的な考え	疾病の分類と自覚症状・他覚症状を理解できる。
2	第3章 病因 内因 素因	年齢、性の相違による発症しやすい疾患を理解できる。
3	内分泌	内分泌疾患を理解できる。
4	定期テストⅠ(小テスト) 外因 供給障害	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 ビタミン欠乏症を理解できる。
5	供給障害・物理的病因作用	ミネラル供給障害を理解できる。 温度の病因作用を理解できる。
6	物理的病因作用・化学的病因作用	放射線、気圧、粉塵の病因作用を理解できる。 主な医原病を理解できる。
7	定期テストⅡ(確認テスト) 化学的病因作用・生物学的病因作用	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 環境汚染と感染症を理解できる。
8	第4章 循環障害	重要なうっ血を理解できる。
9	貧血・出血・血栓・塞栓症	貧血・出血の分類と疾患、血栓の形成誘因を理解できる。
10	定期テストⅢ(小テスト) 塞栓症	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 塞栓症の種類を理解できる。
11	梗塞・水腫	梗塞の分類、水腫の発症機序を理解できる。
12	脱水症・ショック	一次性脱水症と二次性脱水症の相違、ショックの分類を理解できる。
13	第5章 退行性病変 委縮・変性	生理的委縮と褐色委縮を理解できる。 アミロイドーシス、ビリルビン代謝を理解できる。
14	定期テストⅣ(期末テスト) 黄疸	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 黄疸の分類、機序、所見を理解できる。
15	加齢と老化、生活習慣病を理解できる。	認知症、パーキンソン病の機序、症状を理解できる。

〔成績評価について〕

成績評価は4回の筆記試験で行う。
 4回のテストの配点は小テスト計28点、確認テスト28点、期末テスト44点の合計100点とする。
 配点は授業の進行により変更することがあり、その場合は事前に告知する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

積極的に授業に参加し、毎授業後に復習を行うこと。自宅では配布するレジュメを理解するだけでなく、国家試験の過去問題の解答解説を行うこと。
 FORMSで出題する問題を解答し、選択肢について理解すること。
 ◎定期試験前の学習だけでは、一時的、かつ表面的な理解にとどまり、国家試験レベルの習得度に到達することが難しい為、日々の学習が必要となる。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	病理学概論		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

鍼灸マッサージ師、NSCA-CPT/CSCSの資格を持ち、20年以上教育に携わる開業鍼灸師マッサージ師が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業であるため、復習と予習を行って授業に臨んでほしい。

[到達目標]

病因、循環障害、病変、炎症、腫瘍、免疫、先天性異常の病態について理解し、自ら要点を整理し、国家試験レベルの知識を得ることを目的とする。

各章毎に配布するレジュメと国家試験過去問題を使用。
 病理学概論【第2版】公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版

回	〔授業单元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 生活習慣病・壊死と死	胆石症、糖尿病、痛風、動脈硬化症を理解できる。 壊死の分類と心臓死・脳死・遷延性意識障害の定義を理解できる
2	第6章 進行性病変 肥大・再生	仕事肥大を理解できる。 再生の種類・再生能力・再生方法を理解できる。
3	定期テストⅠ(小テスト) 化生・移植	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 化生の意義と主な化生、移植の分類と拒絶反応を理解できる。
4	創傷治癒・異物の処理	創傷治癒の諸段階を理解できる。 異物の処理の種類を理解できる。
5	第7章 炎症 炎症反応・分類	炎症の発症機序を理解できる。 主座による炎症の分類と具体的な炎症を理解できる。
6	特異性炎	結核、梅毒を理解できる。
7	定期テストⅡ(確認テスト) 第8章 腫瘍	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 腫瘍組織の特徴と異型性を理解できる。
8	腫瘍	良性と悪性の特徴と相違、上皮性と非上皮性の特徴を理解できる。
9	腫瘍	前癌病変・転移について理解できる。 主な外因について理解できる。
10	定期テストⅢ(小テスト) 第9章 免疫異常・アレルギー	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 免疫応答の概要を理解できる。
11	免疫系の構成因子	主な免疫担当細胞と特徴を理解できる。 免疫アルブミンの種類と特徴を理解できる。
12	アレルギー・免疫不全	アレルギー型と疾患を理解できる。 後天性免疫不全症候群を理解できる。
13	自己免疫異常 第10章 先天性異常	主な自己免疫疾患と自己抗体を理解できる。 主な先天性代謝異常を理解できる。
14	定期テストⅣ(期末テスト) 形態異常・染色体異常	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 主な染色体異常と標識染色体を理解できる。
15	胎児への影響・遺伝病	単一遺伝子異常の分類と疾患を理解できる。

[成績評価について]

成績評価は4回の筆記試験で行う。
 4回のテストの配点は小テスト計28点、確認テスト28点、期末テスト44点の合計100点とする。
 配点は授業の進行により変更することがあり、その場合は事前に告知する。

[特記事項・授業時間外における学習]

積極的に授業に参加し、毎授業後に復習を行うこと。自宅では配布するレジュメを理解するだけでなく、国家試験の過去問題の解答解説を行うこと。
 FORMSで出題する問題を解答し、選択肢について理解すること。
 ◎定期試験前の学習だけでは、一時的、かつ表面的な理解にとどまり、国家試験レベルの習得度に到達することが難しい為、日々の学習が必要となる。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			担当教員	山田英史先生			
授業科目名	学年	2	開講区分	前期	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
	必修・選択	必修	授業形態	講義				

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した開業鍼灸師が、全ての医療職に必要とされる診察法と症候について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。またチーム医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。

〔到達目標〕

医療面接技法、診察の概要・方法、生命聴講、全身の診察、局所の診察の知識を習得することを目標とする。各診察について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

臨床医学総論(医歯薬出版)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	・第1章;診察の概要 ・第2章;診察の方法 医療面接の意義、関連用語、診察の意義と方法	医療面接の意義、関連用語、診察の意義と方法について理解できる。
2	・第2章;診察の方法 視診、触診、打診	視診、触診、打診の意義と方法について理解できる。
3	・第2章;診察の方法 聴診、測定法、神経系の診察	聴診、測定法、神経系の診察の意義と方法について理解できる。
4	・第3章;生命聴講(バイタルサイン)の診察 体温、脈拍	体温、脈拍の診察の意義と診察方法について理解できる。
5	・第3章;生命聴講(バイタルサイン)の診察 血圧、呼吸	血圧、呼吸の診察の意義と診察方法について理解できる。
6	・第4章;全身の診察 顔貌、精神状態、言語	顔貌、精神状態、言語の診察の意義と診察方法について理解できる。
7	・第4章;全身の診察 身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位	身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位の診察の意義と診察方法について理解できる。
8	中間テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	・第4章;全身の診察 歩行	歩行の診察の意義と診察方法について理解できる。
10	・第4章;全身の診察 皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態	皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態の診察の意義と診察方法について理解できる。
11	・第4章;全身の診察 リンパ節、その他の一般的状態	リンパ節、その他の一般的状態の診察の意義と診察方法について理解できる。
12	・第5章;局所の診察 頭部・顔面	頭部・顔面の診察の意義と診察方法について理解できる。
13	・第5章;局所の診察 眼、鼻	眼、鼻の診察の意義と診察方法について理解できる。
14	・第5章;局所の診察 耳、口腔	耳、口腔の診察の意義と診察方法について理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

小テスト(20%)
中間試験(30%)
期末試験(50%)

〔特記事項・授業時間外における学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員 山田英史先生			
授業科目名 臨床医学総論	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した開業鍼灸師が、全ての医療職に必要とされる診察法と症候について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。またチーム医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。

[到達目標]

医療面接技法、診察の概要・方法、生命聴講、全身の診察、局所の診察の知識を習得することを目標とする。各診察について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。

[使用教材、参考文献等]

臨床医学総論(医歯薬出版)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	・第5章;局所の診察 頸部、胸部、乳房、肺・胸膜	頸部、胸部、乳房、肺・胸膜の診察の意義と診察方法について理解できる。
2	・第5章;局所の診察 腹部・背部	腹部・背部の診察の意義と診察方法について理解できる。
3	・第5章;局所の診察 四肢	四肢の診察の意義と診察方法について理解できる。
4	・第6章;神経系の診察 感覚検査法、反射検査 小テスト	感覚検査法、反射検査の診察の意義と診察方法について理解できる。
5	・第6章;神経系の診察 脳神経系の検査、 髄膜刺激症状検査、その他の検査	脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査の診察の意義と診察方法について理解できる。
6	・第6章;神経系の診察 運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動	運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動の診察の意義と診察方法について理解できる。
7	・第6章;神経系の診察 協調運動～徒手による整形外科的検査法	協調運動～徒手による整形外科的検査法の診察の意義と診察方法について理解できる。
8	中間テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	・第8章;その他の診察 救急時の診察～高齢者の診察 ・第9章;臨床検査法 一般検査 小テスト	救急時の診察～高齢者の診察、一般検査の診察の意義と診察方法について理解できる。
10	・第9章;臨床検査法 血液生化学検査、生理学的検査および画像診断の概要	血液生化学検査、生理学的検査および画像診断の概要の診察の意義と診察方法について理解できる。
11	・第11章;治療学	治療学における診察の意義と診察方法について理解できる。
12	・第12章;臨床心理	臨床心理における診察の意義と診察方法について理解できる。
13	・第10章;おもな症状の診察①	各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。
14	・第10章;おもな症状の診察②	各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[成績評価について]

小テスト(20%)
中間試験(30%)
期末試験(50%)

[特記事項・授業時間外における学習]

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員 藤掛 雅博			
授業科目名 臨床医学各論 I	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。
座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

[到達目標]

各疾患の知識を習得することを目標とする。
各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。

[使用教材、参考文献等]

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	消化器疾患	口腔疾患、食道疾患を理解する。
2	消化器疾患	胃・十二指腸・腸疾患、腹膜疾患を理解する。
3	肝胆膵疾患	肝臓疾患を理解する。
4	肝胆膵疾患	胆・膵臓疾患を理解する。
5	呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患を理解する。
6	呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患を理解する。
7	中間試験	1～5コマで習得の再確認ができる。
8	腎・泌尿器疾患	腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患を理解する。
9	腎・泌尿器疾患	腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患を理解する。
10	内分泌疾患	副腎疾患を理解する。
11	内分泌疾患	副腎疾患を理解する。
12	代謝・栄養疾患	糖代謝異常、脂質代謝異常を理解する。
13	代謝・栄養疾患	その他の代謝異常症を理解する。
14	代謝・栄養疾患	その他の代謝異常症を理解する。
15	期末試験	期末試験の解答解説を行う。

[成績評価について]

評価はFormsと筆記試験で行う。
確認テスト(30点分)、小テスト(20点分)筆記試験(50点分)の合計100点で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。□

[特記事項・授業時間外における学習]

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	臨床医学各論 I			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。
座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

各疾患の知識を習得することを目標とする。
各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	内分泌疾患	甲状腺疾患を理解する。
2	内分泌疾患	下垂体疾患を理解する。
3	代謝・栄養疾患	その他の代謝異常症を理解する。
4	代謝・栄養疾患	その他の代謝異常症を理解する。
5	第1章;感染症 総論、細菌感染症	感染症総論、細菌感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
6	第1章;感染症 細菌感染症・ウイルス感染症	細菌感染症、ウイルス感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
7	第1章;感染症 ウイルス感染症、性感染症	ウイルス感染症、性感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
8	第1章小テスト、第8章;整形外科疾患 総論、骨代謝・骨腫瘍	第1章の小テストによる効果測定を行う。整形外科疾患の総論、骨代謝・骨腫瘍の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
9	第8章;筋・腱疾患	筋・腱疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
10	第8章;関節疾患	関節疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
11	第8章;形態異常、脊髄損傷	形態異常、脊髄損傷の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
12	第8章;脊椎疾患	脊椎疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
13	第8章;外傷	外傷の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
14	第8章;外傷、その他整形外科疾患	外傷と、その他の整形外科疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

評価はFormsと筆記試験で行う。
確認テスト(30点分)、小テスト(20点分)筆記試験(50点分)の合計100点で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。”

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	リハビリテーション医学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数	30 (1)	授業回数	15
東野 友寛										

〔授業の学習内容と心構え〕

治療院勤務、出張施術、トレーナー帯同を経験し、高齢者・学生からアスリート・アーティストまで幅広く対応している教員が、リハビリテーションの捉え方や評価方法を理解し国家試験・臨床に活かしていくための授業を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

リハビリテーションの理念や対象をに対してどのような評価を行い、そこに対して行われる各種介入を理解する。これによってリハビリテーション医学を試験で解く際や臨床で活かせるようにすること。

〔使用教材、参考文献等〕

新版リハビリテーション医学(文光堂)

回	〔授業单元〕	到達目標(できるようになること)
1	理念・目的、語源・歴史、生活機能分類	リハビリテーションの概念を理解する事。障害と生活機能を理解する事。
2	生活機能分類	障害と生活機能を理解する事。
3	リハビリテーションの分野、リハビリテーション医療	各分野、時期にどのような介入が行われているのかを理解する。
4	小テスト、リハビリテーション医療チーム、地域リハビリテーション	地域リハビリテーションについて理解する。
5	診断評価学(リハビリテーション診察の流れ、検査・測定総論)	診察時の要点を理解する。
6	検査・測定各論(形態計測～筋力評価、ADL評価)	各評価の目的・方法を理解する。
7	検査・測定各論(ADL評価復習～摂食嚥下機能評価)	各評価の目的・方法を理解する。
8	確認テスト	各評価の目的・方法を理解する。
9	検査・測定各論(筋緊張・片麻痺機能評価)	各評価の目的・方法を理解する。
10	運動療法	介入を行う対象・方法を理解する。
11	運動療法	介入を行う対象・方法を理解する。
12	小テスト、物理療法	物理療法の種類方法・禁忌などを理解する。
13	物理療法、作業療法	作業療法の概念や対象、介入方法を理解する。
14	言語聴覚療法、補装具療法、自助具・福祉用具	各分野の対象や特徴、関わる職種などを理解する。
15	期末テスト 解説	現時点での理解度、習得できていないところを把握し、理解を深める。

〔成績評価について〕

評価は小テスト、確認テスト、小テストで行う。小テスト(10点×2回)＋確認テスト(30点)＋期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則に準じる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。例年小テスト確認テストで点数ずつ取っていれば合格のものが多いので気を抜かず望んでほしい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	保険の仕組みと職業倫理		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
東 路子										

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、将来、健康保険や介護保険等を適切に取り扱うための、社会保障制度の全体像や社会保険の仕組みについて授業を展開する。制度の目的や役割、給付と負担の関係を理解するとともに、保険を扱う専門職として求められる職業倫理や責任についても考察する。単なる知識の習得にとどまらず、制度を利用する立場への配慮を持ち、誠実な姿勢で学習に取り組むことを重視する。

〔到達目標〕

社会保障制度の仕組みおよび社会保険(健康保険・介護保険等)の基本的な内容を理解し、保険を取り扱う専門職として求められる役割と職業倫理について説明することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

関係法規・医療概論

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	社会保障制度の全体像と社会保険の概要	社会保障制度の目的・歴史・構成(社会保険・社会福祉・公的扶助等)について学び、制度全体の位置づけを理解する。
2	医療保険制度	健康保険の種類、給付内容、自己負担割合、医療提供体制との関係について学ぶ。
3	介護保険制度	介護保険制度の目的、要介護認定の仕組み、給付内容および医療職との関わりについて学ぶ。
4	年金保険制度	国民年金・厚生年金の仕組みや役割を理解し、老後保障の意義について考える。
5	労働保険制度	労災保険・雇用保険の概要を学び、働く人を支える制度としての役割を理解する。
6	社会福祉制度・生活保護	社会福祉制度の考え方と生活保護制度の仕組みを学び、最後のセーフティネットとしての意義を理解する。
7	職業倫理	保険請求の方法について学ぶことができる。
8	制度の総まとめと職業倫理	各制度を総合的に整理し、医療・介護分野で保険を扱う際に求められる職業倫理と責任について考察する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔成績評価について〕

期末試験 1回100点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	経絡経穴概論Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
							岩井 李恩			

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、経絡経穴の知識を臨床現場で活かすための考察をテーマに、基本的な知識の理解、暗記から現場での活用方法までの流れを伝え、学生自身が主体的な学びを行う授業を展開する。

〔到達目標〕

学生自身が経絡経穴を学ぶ意義を見出し、自分が活躍する現場ではどう活用できるかを考えられるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

新版 経絡経穴概論Ⅱ、東洋医学概論

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	経絡経穴の考え方、臨床応用、要穴の特性クイズ	・1年生の経絡の流注を確認する
2	手の厥陰心包経と手の三陰経	・手の厥陰心包経とその他の肺経、心経の走行をイメージできる
3	手の少陽三焦経と手の三陽経	・手厥陰心包経とその他の大腸経、小腸経の走行をイメージできる
4	足の少陽胆経①	・足の少陽胆経の頭部、体幹部の走行、経穴の部位を理解できる
5	足の少陽胆経②	・足の少陽胆経の下肢の走行、経穴の部位を理解できる
6	足の厥陰肝経	・足の厥陰肝経の走行、経穴の部位を理解できる
7	全経絡の復習、穴性など	・現場で使用するための経穴の考え方を理解する
8	最終評価試験	・座学で学んだ知識を、現場を想定して応用できるか評価する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔成績評価について〕

成績評価: 暗唱・レポート連動型(計100点)
 ・暗唱(50点): 各経絡の走行、経穴の順番、要穴
 ・レポート(50点): 最終評価

重要: 評価の上限設定
 レポートで加点される点数は、各自の「暗唱の獲得点」を上限とします。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

【暗唱内容】
 ・各経絡の走行を説明できる
 ・各経絡上にある経穴を唱えられる
 ・各経絡上の要穴を唱えられる

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	東洋医学概論Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
[授業の学習内容と心構え]										

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、東洋医学的診察方法について体系的に講義を行う。四診(望診・聞診・問診・切診)を中心に、症状の捉え方や情報収集の視点を学び、八綱弁証や病因病機を用いた鑑別の考え方について理解を深める。さらに、収集した診察情報をもとに病証を整理し、治療方針の立て方や選穴の考え方へとつなげる思考過程を学習する。本科目では用語の暗記にとどまらず、「なぜその判断に至るのか」を重視し、東洋医学的思考力の育成を目的とする。

[到達目標]

本授業では、東洋医学の診察方法である四診を中心に、診察情報の収集と整理の方法を学ぶ。受講後には、望診・聞診・問診・切診によって得られた情報を八綱弁証や病因病機の視点で整理し、病証を構成する基礎的能力を身につけるとともに、治療方針や選穴につなげるための東洋医学的思考力を養うことを到達目標とする。

[使用教材、参考文献等]

新版 東洋医学概論(医道の日本社)

回	授業単元	到達目標(できるようになること)
1	病因と病証	・病因(外因・内因・不内外因)を判断できる・病証を分類して説明できる
2	八綱① 虚実・寒熱	・虚実・寒熱を「体の状態」として説明できる・実熱と虚熱の違いを言語化できる
3	四診① 望診・聞診	・四診の役割が言える・望診・聞診で拾う情報が分かる
4	四診② 問診(全体)	・問診で何を聞くべきか分かる・寒熱・虚実の視点で質問できる
5	問診③ 部位別・疼痛	・部位別の症状を体系的に聞ける・疼痛を虚実寒熱で説明できる
6	問診④ 月経	・月経を含めた問診情報を病証としてまとめられる
7	切診	・切診の役割と構成が説明できる
8	中間試験	・確認試験を通じて四診を理解する。
9	弁証論治トレーニング①	八綱弁証、気血津液弁証、臟腑弁証についてそれぞれの分類の特徴と仕分けできる。
10	弁証論治トレーニング②	治則と選穴(難経69難)のルールを学び、治療方針をたてることができる。
11	弁証論治トレーニング③	経絡弁証、六淫弁証、六経弁証について特徴を見つけることができる。
12	弁証論治トレーニング④	衛気営血弁証、三焦弁証について特徴を見つけることができる。
13	弁証論治トレーニング⑤	すべての知識を通じて弁証論治し、その病態について説明できる。
14	期末テスト	・期末試験にて弁証論治できる
15	解説	・弱点を見つけ克服することができる

[成績評価について]

中間試験 50点
期末試験 50点

[特記事項・授業時間外における学習]

経絡経穴概論にて、流注 五要穴 五行穴について復習しておくこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	はりきゅう治効理論		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、「鍼灸がなぜ効くのか」についてわかりやすく一般の方にも説明ができるようになるため、授業を展開する。東洋医学とともに発展してきた鍼灸という治療法は西洋医学的な医療従事者と相いれないと考えられてきたが、最近では西洋医学的なエビデンスの獲得が進み、さらに面白い治療になってきたと感じる。その理論を理解することで治療の幅が広がるため、進んで勉強してもらいたい。

〔到達目標〕

なぜ鍼灸治療が効果があるのかの生理学的作用を勉強し理解した後、自分で体験し言語化できるようになってもらう。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう理論[医道の日本社]

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 2.生体の調節 1)運動の調節	運動調節の生理学が理解できる。
2	第8章 2) 内臓の調節	自律神経の生理学が理解できる。
3	第8章 3)感覚	神経線維と伝導路について理解できる。
4	第8章 4)熱傷	熱傷と炎症について理解できる。
5	第8章 5)体表の反応 8章テスト	トリガーポイントの特徴を理解できる。
6	第9章 鍼灸治効機序 全身性鎮痛	全身性鎮痛、特に下行性痛覚抑制系を理解できる。
7	第9章 鍼灸治効機序 脊髄分節性鎮痛 末梢性鎮痛	脊髄分節性鎮痛、末梢性鎮痛を理解できる。
8	下行性痛覚抑制系の復習 鍼通電の体験	下行性痛覚抑制系が理解できる。高頻度の鍼通電を体験する。
9	鎮痛小テスト 第9章 鍼灸治効機序 循環系と鍼灸	軸索反射を理解することができる。
10	第9章 鍼灸治効機序 消化器系と鍼・泌尿器系と鍼・リラクゼーションと鍼灸	消化管運動・下部尿路機能に鍼が及ぼす影響について理解できる。
11	第9章 生体防御系と鍼灸・第10章 鍼灸治効機序と臨床の接点	消化管運動・下部尿路機能に鍼が及ぼす影響について理解できる。
12	10章 鍼灸治効機序と臨床の接点 関連学説 8章復習 循環・消化器小テスト	関連学説を想像する。また8章の範囲を理解できる。
13	循環系・運動系・消化器系・泌尿器系・リラクゼーション・生体防御の復習	第9章 第10章の復習を行い、特に重要な範囲を理解することができる。
14	期末試験	鍼灸刺激の治効理論を理解できる 確認テストにより第8.9.10章の理解度を確認できる
15	期末試験 解答・解説 国試問題解説	期末試験の解答解説を行い、苦手な範囲を復習することができる。

〔成績評価について〕

評価はFormsで行う。
確認テスト(30点分)、課題(10点)、筆記試験(60点分)の合計100点で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員 進藤 千聖				
授業科目名 東洋医学臨床論 I	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、臨床現場で遭遇する症候に対して西洋医学・投与医学両方の知識を使って病態把握するための方法を学ぶ。
特に、西洋医学ではいわゆるレッドフラッグを理解し、医療機関との連携を図れるような知識を養う。

〔到達目標〕

- ・各症候におけるレッドフラッグとそれに対する疾患名を理解する。
- ・東洋医学的な診察に基づき、基本的な病態把握が可能となる。

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 東洋医学的な診断法の復習	成績の付け方について説明する。治療の原理原則・八綱弁証など東洋医学概論の復習をしていく。
2	東洋医学的な診断法の復習	症例を用いて気血津液弁証・臓腑弁証ができるようになる。
3	頭痛・顔面痛・歯痛	症例を用いて弁証・配穴ができるようになる。
4	痺証①	痺証にみられる証分類と疼痛部位に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
5	痺証②	痺証にみられる証分類と疼痛部位に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
6	痺証③	痺証にみられる証分類と疼痛部位に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
7	胸痛	胸痛にみられる証分類とそれぞれ各証に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
8	確認試験 腹痛	確認試験後にフィードバック
9	腹痛	腹痛にみられる証分類とそれぞれ各証に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
10	食欲不振	食欲不振にみられる証分類とそれぞれ各証に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
11	肥満と痩せ	肥満や痩せにみられる証分類とそれぞれ各証に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
12	悪心嘔吐	悪心嘔吐にみられる証分類とそれぞれ各証に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
13	便秘	便秘にみられる証分類とそれぞれ各証に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
14	下痢	下痢にみられる証分類とそれぞれ各証に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
15	期末試験	確認試験後にフィードバック

〔成績評価について〕

確認試験、期末試験、課題レポートで評価する。
期末試験50点、確認試験30点、課題20点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業前後に配信する予習・復習ツールを活用し、東洋医学概論で履修した内容をブラッシュアップしてほしい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員 進藤 千聖				
授業科目名 東洋医学臨床論Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、臨床現場で遭遇する症候に対して西洋医学・投与医学両方の知識を使って病態把握するための方法を学ぶ。
特に、西洋医学ではいわゆるレッドフラッグを理解し、医療機関との連携を図れるような知識を養う。

〔到達目標〕

- ・各症候におけるレッドフラッグとそれに対する疾患名を理解する。
- ・東洋医学的な診察に基づき、基本的な病態把握が可能となる。

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第1章 総論、第2章 各論「眼精疲労」	東洋医学概論を学び終え、更なるステップアップのための東洋医学臨床論を学ぶための導入部分の理解ができる。
2	各論「気分障害(うつ状態)、「めまい」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
3	各論「めまい」、「動悸・息切れ」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
4	各論「動悸・息切れ」、「血圧異常」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
5	各論「血圧異常」、「睡眠障害」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
6	各論「睡眠障害」、「咳嗽と喀痰」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
7	各論「咳嗽と喀痰」、「呼吸困難」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
8	各論「鼻閉・鼻汁」、「脱毛症」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
9	確認テスト	ここまでの復習を兼ねた確認テストの実施
10	各論「脱毛症」、「耳鳴り・難聴」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
11	各論「耳鳴り・難聴」、「排尿障害」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
12	各論「排尿障害」、「ED」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
13	テストに向けての対策と復習	ポイントをおさえてテストクリアできるように復習する。
14	確認テスト	東洋医学臨床論の総復習としてのテストをする。習熟度をチェックしてみる。
15	確認テスト返却と解答	テストの見直しと確認

〔成績評価について〕

確認試験、期末試験、課題レポートで評価する。
期末試験50点、確認試験30点、課題20点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業前後に配信する予習・復習ツールを活用し、東洋医学概論で履修した内容をブラッシュアップしてほしい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	2	開講区分	前期	担当教員 深山 俊			
授業科目名 病態生理学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

鍼灸師として地域住民の健康増進に貢献している教員が、現代西洋医学をベースに病態把握・鑑別をするために必要な知識を習得するための授業を行なう。
座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。また統合医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。

[到達目標]

臨床医学総論や臨床医学各論の知識に肉付けし、臨床科目の理解を促すことを目的として、病態把握、鑑別の必要性を理解し、重篤な疾患や緊急を要する病態を見落とさないための知識を習得することを目標とする。

[使用教材、参考文献等]

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	病態生理とは 痛みとは	病態生理について理解できる。痛みの分類を理解できる。
2	痛みとは	痛みの発生機序を理解できる。
3	<痛み 小テスト>消化管疾患の病態生理	消化器疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。 <確認テスト>
4	消化管疾患の病態生理	消化器疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。
5	<消化管 小テスト>下痢・便秘の病態生理	下痢・便秘の病態生理、臨床症状について、理解できる。 <確認テスト>
6	下痢・便秘の病態生理<下痢・便秘小テスト>	下痢・便秘の病態生理、臨床症状について、理解できる。
7	確認テスト	確認テスト
8	<各疾患の病態生理>発表デモ	発表に向けて流れを理解する。
9	<各疾患の病態生理>発表準備	発表準備
10	<各疾患の病態生理>発表準備	発表準備
11	<各疾患の病態生理>発表準備	発表準備
12	<各疾患の病態生理>発表準備	発表準備
13	<各疾患の病態生理>発表準備	発表準備
14	<各疾患の病態生理>発表	発表
15	<各疾患の病態生理>発表	発表

[成績評価について]

評価は筆記試験とグループ発表で行う。筆記試験は小テスト(5×3=15点)、確認テスト25点、グループワーク(姿勢や内容で60点)で評価する。

[特記事項・授業時間外における学習]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。発表に関して、各々が積極的にグループワークに参加し、誰でも発表できる準備をしておくこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			開講区分	前期	担当教員	
授業科目名	学年	2	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)
検査測定学							30(1)
							授業回数
							15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、必要な疾患の概念を指導し、適切な検査を習得するための授業を行なう。応用技術習得と並行し、現場で通用するような基礎技術の向上が目的にある為、現場で必要とされる技術を身に付けられるよう授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

腱反射の意義を理解し、速やかに検査できる。血圧測定の意義を理解し、速やかに測定ができる。全身の徒手検査法を理解・習得し、模擬患者に実施できる。ROM測定の意義を理解し、速やかに測定ができる。MMT検査の意義を理解し、速やかに検査できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸臨床BOOK□

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	徒手検査法①	頸部、上肢の徒手検査法を理解・習得し、模擬患者に実施できる。
2	徒手検査法②	腰部、下肢の徒手検査法を理解・習得し、模擬患者に実施できる。
3	徒手検査法③	全身の徒手検査法を復習し、修得できる。
4	徒手検査法④	各徒手検査法の重点項目を理解し、
5	徒手検査法 試験	試験により徒手検査法の理解を確認し、未修得箇所を確認できる。
6	ROM測定①	ROM測定の意義を理解し、ゴニオメーターの基本的な扱いを習得できる。
7	ROM測定②	頭頸部、上肢のROM測定の意義を理解し、速やかに測定ができる。
8	ROM測定③	腰部、下肢のROM測定の意義を理解し、速やかに測定ができる。
9	ROM測定④	全身のROM測定を復習し、修得する。
10	ROM測定 試験	試験によりROM測定の理解を確認し、未修得箇所を確認できる。
11	腱反射の検査	腱反射の意義を理解し、速やかに検査できる。
12	MMT検査①	MMT検査の意義を理解し、基本的な計測法と注意点を理解できる。
13	MMT検査②	頭頸部、体幹部、四肢のMMT検査の意義を理解し、速やかに測定ができる。
14	総合診察訓練①	想定した患者モデルに対し、聴取内容から総合的に判断し検査を選択できる。
15	総合診察訓練②	想定した患者モデルに対し、聴取内容から総合的に判断し検査を実施・記録ができる。

〔成績評価について〕

評価は実技試験で行う。実技試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。難しい手技や疾患の不明点があれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員 酒井 大輝				
授業科目名 社会あはき学Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、多様な臨床現場でのあはき師の業務・役割について教授する。
また、鍼灸師の新たな働き方や分野の創造、はりきゅう経営に関わる経営学を講義・ワーク形式で行う。

[到達目標]

1年次に学んだ社会あはき学の内容を踏まえ、様々な現場で活動する鍼灸師の仕事・役割をすることで、自身の将来像をより明確に出来る。
独立開業権を有する鍼灸師として、治療院経営をイメージできる。

[使用教材、参考文献等]

社会あはき学

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	鍼灸師としての活躍の場①	あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。
2	鍼灸師としての活躍の場②	あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。
3	鍼灸師としての活躍の場③	あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。
4	鍼灸師としての活躍の場④	あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。
5	アイデアの想像	鍼灸の可能性を確認し、自分のやりたいことを言語化する事ができる。
6	アイデアの発表	言語化したアイデアを理解し、発表することができる。
7	グループワーク(プレスト)	グループに分かれて意見を集約。ビジネスの想像をすることができる。
8	グループワーク(サービス)	グループに分かれて誰の、何の課題を解決するのかを考え、資料に落とし込むことができる。
9	グループワーク(市場調査)	グループに分かれて、やりたいビジネスの市場調査を行い、資料に落とし込むことができる。
10	グループワーク(マネタイズ)	グループに分かれて、どのようにお金をもらうのかを考え、資料に落とし込むことができる。
11	グループワーク(損益計算書)	グループに分かれて、損益計算書を作成することができる。
12	グループワーク(事業計画)	グループに分かれて、簡易的に事業計画を作成することができる。
13	グループワーク(まとめ)	グループに分かれて、発表の準備を行い、資料を完成させられる。
14	期末試験(発表)	グループで作成した成果物を発表することができる。
15	期末試験(発表)	グループで作成した成果物を発表することができる。

[成績評価について]

評価は授業内で行うワークでの成果物と発表にて行う。

[特記事項・授業時間外における学習]

必要に応じてプリントを配布する。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	2	開講区分	前期	担当教員 酒井 大輝 / 森 大輔				
授業科目名 応用はり実技	必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。大関節を中心に主要な筋肉・靭帯への刺鍼・通電を行う。また、整形外科的疾患や内科疾患の理解と臨床での応用を学び、最終学年になる心構えを身に着ける。

[到達目標]

上下肢のメジャーな筋肉の触察をし、通電ができる。また、指示された部位に指示された深度・角度で刺入することができる。

[使用教材、参考文献等]

配布資料・ずっと使える！鍼灸臨床BOOK

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	ガイダンス	この授業の方針を理解し、直刺・斜刺の技術確認ができる。
2	横刺の練習	横刺の方法を知り、実施することができる。
3	技術確認	直刺・斜刺・横刺の練習を行い、試験に向けて準備ができる。
4	試験	直刺・斜刺・横刺の効果測定を行い、自分の課題を明確にする。
5	練習	試験のフィードバックを受けて、修正することができる。
6	下肢の通電①腓腹筋・ヒラメ筋	腓腹筋・ヒラメ筋の触察および通電ができる。
7	下肢の通電②前脛骨筋・長趾伸筋	前脛骨筋・長趾伸筋の触察および通電ができる。
8	下肢の通電③長・短腓骨筋	長・短腓骨筋の触察および通電ができる。
9	下肢の通電④大腿四頭筋	大腿四頭筋の触察および通電ができる。
10	下肢の通電⑤ハムストリングス	ハムストリングスの触察および通電ができる。
11	下肢の通電 総復習	下肢の筋肉の復習を行い、通電することができる。
12	下肢 試験	試験のフィードバックを受けて、修正することができる。
13	上肢の通電①長橈側手根伸筋・総指伸筋	長橈側手根伸筋と総指伸筋の触察および通電ができる。
14	上肢の通電②橈側手根屈筋・円回内筋	橈側手根屈筋と円回内筋の触察および通電できる。
15	上肢の通電③上腕二頭筋・上腕三頭筋	上腕二頭筋・上腕三頭筋の触察および通電できる。

[成績評価について]

実技評価にて確認試験を行う。実技試験は確認試験と期末試験の合計100点で評価する。評価については学則規定に準じる。

[特記事項・授業時間外における学習]

自宅では練習できない範囲があるため、実技室開放などの場を有効活用して取り組み、疾患に対しての勉強は自宅ですべて予習・復習を行う。また、鍼を扱うことを軽んじることなく、責任感をもって授業に臨む。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員 酒井 大輝 / 森 大輔				
授業科目名 応用はり実技	必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。大関節を中心に主要な筋肉・靭帯への刺鍼・通電を行う。また、整形外科的疾患や内科疾患の理解と臨床での応用を学び、最終学年になる心構えを身に着ける。

[到達目標]

上下肢のメジャーな筋肉の触察をし、通電ができる。また、指示された部位に指示された深度・角度で刺入することができる。

[使用教材、参考文献等]

配布資料・ずっと使える！鍼灸臨床BOOK

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	上肢の通電④三角筋	三角筋の触察および通電できる。
2	上肢の通電⑤ローテーターカフ	ローテーターカフの触察および通電できる。
3	上肢の通電⑥僧帽筋	僧帽筋のつまみ押手と通電できる
4	上肢の通電 総復習	上肢の筋肉の復習を行い、通電することができる。
5	上肢 試験	試験のフィードバックを受けて、修正することができる。
6	上肢のデルマトーム	上肢デルマトームを理解できる。
7	頰椎症	頰椎症の病態を把握し、適切な治療ができる。
8	下肢のデルマトーム	下肢デルマトームを理解できる。
9	腰痛・腰椎椎間板ヘルニア	腰痛・ヘルニアの病態を把握し、適切な治療ができる。
10	肉離れ①	肉離れの病態を把握し、適切な治療ができる。
11	肉離れ②	肉離れの病態を把握し、適切な治療ができる。
12	肩関節周囲炎①	肩関節周囲炎の病態を把握し、適切な治療ができる。
13	肩関節周囲炎②	肩関節周囲炎の病態を把握し、適切な治療ができる。
14	試験	問題文を読み、その症状に適したデルマトームの絵と刺鍼の試験を行うことができる。
15	試験	症例検討を行い、適切な筋肉を選び、適切な深度・角度で刺鍼することができる。

[成績評価について]

実技評価にて確認試験を行う。実技試験は確認試験と期末試験の合計100点で評価する。評価については学則規定に準じる。

[特記事項・授業時間外における学習]

自宅では練習できない範囲があるため、実技室開放などの場を有効活用して取り組み、疾患に対しての勉強は自宅ですべて予習・復習を行う。また、鍼を扱うことを軽んじることなく、責任感をもって授業に臨む。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員	
授業科目名	応用はりきゅう実技		必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)
							授業回数	15
							東 路子 / 岩井 李恩	

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、東洋医学的身体診察の基礎を身につけることを目的とし、紙上施術や自分カルテによる体質診断から始め、虚実・表裏・寒熱の鑑別を中心に、問診、脈診、舌診、切経を段階的に学び、診察結果を統合して考える力を養う。また、足・手の三陰三陽経の取穴と切経による治療を通して、正確な取穴と安全な鍼操作を習得する。実務経験を有する教員が、臨床での判断や注意点を交えながら、基本に忠実な診察・治療の流れを指導する。□

〔到達目標〕

前期終了時には、東洋医学に基づく身体診察の基本的な考え方を理解し、虚実・表裏・寒熱の鑑別を問診・脈診・舌診・切経を用いて行うことができる。また、足・手の三陰三陽経について、主要な経絡走行を把握し、安全かつ正確に取穴し、切経を用いた基礎的な治療を実施できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸臨床Book

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション・紙上施術・自分カルテ(体質診断)	授業目的と安全管理を理解し、紙上施術と自分カルテで体質と診療思考を把握できる。
2	虚実の鑑別のための問診＋鍼の補瀉①	虚実鑑別に必要な問診を行い、基本的な鍼の補瀉を安全に実践できる。
3	虚実の鑑別のための問診＋鍼の補瀉②	虚実鑑別に必要な問診を行い、基本的な鍼の補瀉を安全に実践できる。
4	表裏・寒熱のための問診＋脈診①	表裏・寒熱鑑別のための問診を行い、脈診の基本動作を実践できる。
5	表裏・寒熱のための問診＋脈診②	表裏・寒熱鑑別のための問診を行い、脈診を判別につなげることができる。
6	舌診、問診＋脈診での体質診断＋切経	舌診を観察し、問診・脈診から体質を捉え、切経を実践できる。
7	足の三陰経取穴＋切経での治療	足の三陰経を正確に取穴し、切経を用いた基礎的な治療を実践できる。
8	足の三陽経取穴＋切経での治療	足の三陽経を正確に取穴し、切経を用いた基礎的な治療を実践できる。
9	足の経絡の取穴の確認＋治療	足の経絡を正確に取穴し、切経を用いた基礎的な治療を実践できる。
10	手の三陰経取穴＋切経での治療	手の三陰経を正確に取穴し、切経を用いた基礎的な治療を実践できる。
11	手の三陽経取穴＋切経での治療	手の三陽経を正確に取穴し、切経を用いた基礎的な治療を実践できる。
12	手の経絡の取穴の確認＋治療	手の経絡を正確に取穴し、切経を用いた基礎的な治療を実践できる。
13	試験	東洋医学的診察方法と取穴について、課題に基づき実行できる。
14	問診から診察、治療	問診から診察までを行い、東洋医学的判断に基づく鑑別、治療を実践できる。
15	問診から診察、治療	問診から診察を行い、得られた情報をもとに治療を実践できる。

〔成績評価について〕

実技にて評価を行う
 ① ルーブリック評価 80点
 ② 紙上施術 80点
 ③ 評価試験 40点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

評価①ルーブリック評価
 3点 × 7ケール = 21点 □
 カルテ提出: 4点 × 2回 = 8点 □
 自己評価(最終分析): 1点 □
 評価②全6回実施、50壮紙・10分(実施回: 6、11、16、21、26、30) □
 基本評価: 5点(穴なし45壮以上)、4点(40壮以上)、0点(40壮未満) □
 50壮以上の場合: 穴あき率で評価(10%以内→5点、20%以内→4点)
 評価③ 授業内で告知 □

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			学年	2	開講区分	後期	担当教員	東 路子 / 岩井 李恩		
授業科目名	応用はりきゅう実技			必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、腹診・背候診、吸い玉、灸頭鍼、知熱灸などの診察・治療技術を学び、適応と禁忌を理解した上で安全に実施できる力を養う。問診から診察、治療までを一連の流れとして繰り返し実践し、臨床を想定した治療構成力を高める。また、東洋医学治療の総合的理解を深め、試験前練習やフィードバックを通して自己の課題を明確にする。学生が施術者としての自覚と責任を持ち、確実に丁寧な診察・治療を行えるよう指導する。□

〔到達目標〕

後期終了時には、腹診・背候診を含む総合的な身体診察を行い、問診から診察、治療までを一連の流れとして構成・実施できる。吸い玉、灸頭鍼、知熱灸などの治療技術について、適応・禁忌を理解した上で安全に施術できる。また、東洋医学的視点から病態を把握し、複数の情報を統合して治療内容を判断できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸臨床Book

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	腹診、背候診+吸い玉	腹診・背候診および吸い玉の安全な手技と基本操作を理解し、正しく実践できる。
2	腹診、背候診+吸い玉	ペアを対象に腹診・背候診を行い、吸い玉を安全に実施できる。
3	腹診、背候診+吸い玉	腹診・背候診の結果をもとに診断し、治療として吸い玉を実践できる。
4	灸頭鍼、知熱灸	灸頭鍼・知熱灸の適応と禁忌を理解し、安全な操作と基本手技を実践できる。
5	灸頭鍼、知熱灸	ペアを対象に、灸頭鍼・知熱灸を安全に実施し、温熱刺激を適切に調整できる。
6	灸頭鍼、知熱灸	診察結果をもとに灸頭鍼・知熱灸を選択し、治療として実践できる。
7	東洋医学治療のオリエン	東洋医学治療の進め方と考え方を理解し、総合実技に臨む準備ができる。
8	東洋医学治療①	問診と身体診察の結果をもとに、東洋医学的治療を構成し実践できる。
9	東洋医学治療②	問診・身体診察をもとに、東洋医学的治療方針を立てて実践できる。
10	東洋医学治療③	診察結果を統合し、経絡・手技を選択した治療を実践できる。
11	東洋医学治療④	施術中・施術後の変化を確認し、治療内容を調整できる。
12	東洋医学治療⑤	診断から治療までを一人で構成し、安全に総合的治療を実践できる。
13	試験前練習日	試験を想定し、診察・治療の手順を確認しながら実践できる。
14	試験日	課題に対し、東洋医学的診察を行い、選穴と治療手技を選択し実行できる。
15	フィードバックの日	試験のフィードバックを受け、自身の不足点を把握し技術を確認できる。

〔成績評価について〕

実技にて評価を行う
 ① ルーブリック評価 80点
 ② 紙上施灸 80点
 ③ 評価試験 40点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

評価①ルーブリック評価
 3点 × 7ケール = 21点 □
 カルテ提出: 4点 × 2回 = 8点 □
 自己評価(最終分析): 1点 □
 評価②全6回実施、50壮紙・10分(実施回: 6、11、16、21、26、30) □
 基本評価: 5点(穴なし45壮以上)、4点(40壮以上)、0点(40壮未満) □
 50壮以上の場合: 穴あき率で評価(10%以内→5点、20%以内→4点)
 評価③ 授業内で告知 □

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	認定実技(OSCE) II		必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕
 臨床現場で様々な患者に関わってきた教員が、臨床実習に臨むために医療人としてふさわしい技術・知識を身につけるための講義を行う。

〔到達目標〕
 客観的臨床能力試験に向けたコミュニケーション技法を把握できる。
 医療人として必要とされる技術・知識を理解できる。

〔使用教材、参考文献等〕
 ずっと使える！鍼灸臨床BOOK

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	実習前教育 実習概要説明、紹介書の作成①	実習概要を理解し、実習教育に必要となる準備について理解できる。
2	マナー教育、個人情報の取扱い、紹介書の作成②	実習生に求められるマナーを理解し、身だしなみや態度に留意し、実習教育に必要となる準備物を作成するとともに、個人情報取り扱いの注意点を正しく理解できる。
3	東洋系模擬試験	実習前の学習理解度確認のための試験を通して、東洋医学的評価のための知識を確認できる。
4	東洋系模擬試験	実習前の学習理解度確認のための試験を通して、東洋医学的評価のための知識を確認できる。
5	実習前教育 治療院実習の手引き	学校附属鍼灸院の実習における基本的準則を理解できる。
6	実習前教育 リスク管理	医療現場におけるリスクファクターと対策を知るとともに、インシデントレポートの意義・書き方を理解できる。
7	医療面接の概要	医療面接における聴取事項と面接者としての配慮を理解できる。SOAP形式による記載事項を理解できる。
8	医療面接のロールプレイ	医療面接に必要な項目を聴取し、メモを取ることができる。
9	医療面接のロールプレイ	医療面接に必要な項目を聴取し、整理してメモを取ることができる。
10	医療面接のロールプレイ	医療面接に必要な項目を聴取し、メモを取り要約して伝えることができる。
11	医療面接試験	医療面接のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。
12	客観的臨床能力評価試験①	miniOSCEの実施により、医療面接と検査法の情報をまとめる能力を獲得できる。
13	客観的臨床能力評価試験②	miniOSCEの実施により、医療面接と検査法の情報をまとめる能力を獲得できる。
14	客観的臨床能力評価試験フィードバック	miniOSCEの結果フィードバックを受け、修得すべき臨床能力の理解を深められる。
15	実習教育総括	実習教育により培った知識・技能・態度を振り返り、実習生としての自らの課題を抽出できる。

〔成績評価について〕 評価は医療面接による確認テストとminiOSCEによる評価の合計100点で行なう。評価は学則規定に準ずる。	〔特記事項・授業時間外における学習〕 学生は実習を受けさせていただくにあたり、対人におけるマナー、礼節、リスク管理、時間管理を疎かにしてはならない。効果的な実習体験ができるよう、どのような行動を取るべきかを常に考え、分からない事や知りたい事は自らアドバイスを求めること。
---	--

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	2	開講区分	前期	担当教員 鳥海 崇			
授業科目名 臨床実習 I	必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	90(2)	授業回数	—

[授業の学習内容と心構え]

5年以上開業ならびに5年以上の臨床経験を持ち、講習会を受講しているまたは専任教員資格を有する実習指導者が鍼灸師のスペシャリストを目指すために患者接遇や院内コミュニケーションの重要性を取得する実習を行なう。鍼灸師としてのやりがいや重要性を見つけ、専門職として必要なことは何かを考えながら実習してほしい。実習となるため、報告・連絡・相談を忘れず実習に臨んでほしい。

[到達目標]

挨拶・言葉遣い・身だしなみ等、鍼灸施術所で必要なコミュニケーションができる。院内業務を理解し、実習指導者に適切な質問ができる。デイリーノートをしっかりと記載し、自身の課題を把握できる。

[使用教材、参考文献等]

デイリーノート

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
2	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
3	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
4	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
5	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
6	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
7	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
8	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
9	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
10	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
11	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
12	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
13	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
14	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
15	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける

[成績評価について]

評価は別途評価表で行なう。評価は現場実習評価、レポート・実習後評価の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

通常授業とは異なる外部での実習となるため、緊急事項に関しては必ず指導者と学校に連絡をすること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年 2	開講区分 前期	担当教員 櫻井恵司 / 進藤千聖			
授業科目名 総合学習	必修・選択 必修	授業形態	講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15	

〔授業の学習内容と心構え〕

NSCA-CSCS/CPT、鍼灸マッサージ師の資格を持ち、20年以上の教員経験がある開業鍼灸師・パーソナルトレーナーが、レジスタンストレーニングテクニック、及びプログラムデザインに関する基礎的な知識・技術を習得する授業を行う。解剖学で習得した運動器について、理解を深め、鍼灸の施術やトレーニング指導に活用できるようになる。

〔到達目標〕

肩関節、股関節の機能解剖を理解し、レジスタンストレーニングの主要種目の目的やフォームを身につける。また、プログラムデザインの方法を理解することで、レジスタンストレーニングのプログラム作成を習得する。

〔使用教材、参考文献等〕

授業は配布資料を使用
 【参考図書】NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識【第3版】

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	【教室】オリエンテーション、肩甲複合体と股関節の作用 RTテクニック	肩甲複合体と股関節の動きをできる説明。 グリップの種類、5ポイントコンタクトを説明できる。
2	【教室】BIG3フォーム RTテクニック	BIG3の正しいフォームと良くある間違いを説明できる。 筋の活動様式、呼吸、補助を説明できる。
3	【ジム】BIG3実技	BIG3を実際に行うことができる。
4	【ジム】BIG3実技 胸部のトレーニング種目	正しいフォームを考慮して、BIG3を行うことができる。 DP、DF、IDPのフォームを理解できる。
5	【ジム】BIG3実技 脚部のトレーニング種目	正しいフォームを考慮して、BIG3を行うことができる。 Bスクワット、レッグEX、レッグカールのフォームを理解できる。
6	【教室】確認テスト 背部のトレーニング種目、プログラムデザイン	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 ラットプルダウン、ベントロウ、ダンベルロウのフォームを理解できる。 トレーニング原理を説明できる。
7	【ジム】胸・脚・背部の主な種目の確認 グループで胸・脚部・背部のうち1部位のトレーニング	グループで協力して、各種目を行うことができる①
8	【ジム】プログラムデザイン グループで胸・脚部・背部のうち1部位のトレーニング	グループで協力して、各種目を行うことができる② 頻度とエクササイズ種目を説明できる。
9	【ジム】プログラムデザイン グループで胸・脚部・背部のうち1部位のトレーニング	グループで協力して、各種目を行うことができる③ エクササイズの順番を説明できる。
10	【教室】プログラムデザイン 肩・腕部のトレーニング種目	トレーニング負荷を説明できる。ショルダープレス、ラテラルレイズ、バイセップスカール、トライセップスEXなどの正しいフォームを理解できる。
11	【ジム】肩・腕の主な種目の確認 グループで胸・脚部・背部のうち1部位のトレーニング	グループで協力して、各種目を正しく行うことができる①
12	【ジム】プログラムデザイン グループで胸・脚部・背部のうち1部位のトレーニング	グループで協力して、各種目を正しく行うことができる② 目標に応じた負荷設定、段階的負荷設定を説明できる。
13	【ジム】期末試験(プログラムデザイン中心) グループで胸・脚部・背部のうち1部位のトレーニング	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 グループで協力して、各種目を正しく行うことができる③
14	歩行バイオメカニクスと臨床応用	歩くを機能面から分析すること、歩くことが様々な運動の基礎であることが理解できます。またセンシングインソールを紹介し歩行分析の有用性についての理解することができます。インソールの設計や施術方針への応用について知ることができます。
15	学生スポーツ障害に多いオスグッドの臨床	学生スポーツで起こる故障によって、夢や目標をあきらめてしまう子供たちがたくさんいます。今回は成長期に起こるオスグッドを最速で改善させる処置や施術方法について理解することができます。将来の子供たちを救える施術者になれます。

<p>〔成績評価について〕</p> <p>評価は実技授業20点(2×9+2)、確認試験(30点)・期末試験(40点)の計100点で行う。 評価は学則規定に準ずる。</p>	<p>〔特記事項・授業時間外における学習〕</p> <p>解剖学の運動器について復習し、授業に臨むこと。 実技は危険を伴うため、集中して参加すること。 グループで協力しながら、各自が正しいフォームを身につけることができるように努力すること。</p> <p>トレーニング経験者、トレーナー資格取得者は、グループでリーダーシップを取り、積極的に初心者に指導すること</p>
---	--

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	総合学習		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
							櫻井恵司 / 進藤千聖			

〔授業の学習内容と心構え〕

NSCA-CSCS/CPT、鍼灸マッサージ師の資格を持ち、20年以上の教員経験がある開業鍼灸師・パーソナルトレーナーが、レジスタンストレーニングテクニック、及びプログラムデザインに関する基礎的な知識・技術を習得する授業を行う。解剖学で習得した運動器について、理解を深め、鍼灸の施術やトレーニング指導に活用できるようになる。

〔到達目標〕

肩関節、股関節の機能解剖を理解し、レジスタンストレーニングの主要種目の目的やフォームを身につける。また、プログラムデザインの方法を理解することで、レジスタンストレーニングのプログラム作成を習得する。

〔使用教材、参考文献等〕

授業は配布資料を使用

【参考図書】NSCA/パーソナルトレーナーのための基礎知識【第3版】

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	脊椎とパフォーマンスの関係と臨床	私たち人類にとって脊椎は非常に重要であり、多くの臨床において重要な施術ポイントになります。スポーツにおいても脊椎の可動性がパフォーマンスへ影響します。生後からの脊椎の変化、姿勢の変化と重要筋群を理解して、体幹部分への施術手技の習得を目指します。
2	神経からみる不調と臨床	現代社会はストレス社会と言われ、痛みや不定愁訴を訴える方が多くいます。その不調と神経の関係を理解し施術へ応用することで、ケガや病気の予防への施術の有効性を理解できます。
3	女性の体と女性疾患の臨床	女性は妊娠出産をする構造であるためホルモンバランスの影響を多く受けます。女性のお悩みが起こるメカニズムを理解、鍼灸による不定愁訴の改善について理解できます。
4	鍼灸師が未来社会における可能性と役割	テクノロジーが急速で進化する現代社会において5年後・10年後の未来社会をイメージすることは非常に重要です。この会では、“今”ではなく“未来”における鍼灸師としての活躍のステージや価値を見出すことを目的に、一緒に創造していきましょう。
5	物理療法と鍼灸治療の親和性	物理療法の種類を学ぶ
6	BLS	学課講習
7	BLS	学課講習
8	BLS	傷病者程度の区分
9	BLS	レサシテーションマスクでの人工呼吸
10	BLS	小児乳児BLS、運搬法
11	BLS	BLS問題
12	BLS	感染対策BLS
13	BLS	一連の流れを評価する
14	職業倫理と系統解剖①	解剖見学にあたり命の尊さや献体への感謝の気持ちが持てる。
15	職業倫理と系統解剖②	解剖見学にあたり命の尊さや献体への感謝の気持ちが持てる。

〔成績評価について〕

評価は実技授業20点(2×9+2)、確認試験(30点)・期末試験(40点)の計100点で行う。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

解剖学の運動器について復習し、授業に臨むこと。
 実技は危険を伴うため、集中して参加すること。
 グループで協力しながら、各自が正しいフォームを身につけることができるように努力すること。
 トレーニング経験者、トレーナー資格取得者は、グループでリーダーシップを取り、積極的に初心者へ指導すること

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	総合スポーツ演習 I			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

プロスポーツ現場で約10年間トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場としてトレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいた知識・技術・経験を含め授業を展開する。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔到達目標〕

プロスポーツの現場で約10年トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場として、トレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいたかたちでトレーナーの知識・技術・経験などを学ばせていく。トレーナー現場での中・高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるように、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔使用教材、参考文献等〕

テーピングのポイントはこれだ！（滋慶出版）、スポーツ外傷・障害の理学診断理学療法ガイド、スポーツ外傷・障害に対する術後の

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	講義の概要とスポーツ外傷について	スポーツ外傷の基礎的な内容が理解できる。
2	足関節・足部の外傷と評価	足関節・足部の外傷と評価方法が理解できる。
3	足関節・足部の外傷における治療と運動療法	足関節・足部における治療と運動療法が理解できる。
4	部位別ケーススタディ(足関節捻挫)	足関節捻挫におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
5	膝関節の外傷と評価	膝関節の外傷と評価方法が理解できる。
6	膝関節の外傷における治療と運動療法	膝関節外傷における治療と運動療法が理解できる。
7	膝の構造と内側側副靭帯に対するテーピング①	膝の構造を理解し、内側側副靭帯損傷に対するテーピングができる。
8	膝の構造と前十字靭帯に対するテーピング②	膝の構造を理解し、前十字靭帯損傷に対するテーピングができる。
9	膝の構造と各靭帯に対するテーピングの確認テスト(実技)	内側側副靭帯損傷もしくは前十字靭帯損傷に対するテーピングを理解できているか確認テストを行なう。
10	部位別ケーススタディ(前十字靭帯損傷)	膝前十字靭帯損傷におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
11	肉離れの概要と評価	肉離れの概要と評価方法が理解できる。
12	肉離れにおける治療と運動療法	肉離れにおける治療と運動療法が理解できる。
13	肉離れとテーピング	肉離れの概要を理解し、必要なテーピングができる。
14	股関節周囲筋(内転筋、ハムストリングス、大腿四頭筋)群の肉離れ評価の確認テスト(実技)	股関節周囲筋(内転筋、ハムストリングス、大腿四頭筋)群の肉離れ評価を理解できているか確認テストを行なう。
15	期末試験	筆記テストにより知識のアウトプットをする。

〔成績評価について〕

評価は確認テストと筆記試験などにより採点を行い、合計100点で評価する。実技確認テストは、各20点満点とし、筆記試験は60点満点とする。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			担当教員	鈴木 勇気			
授業科目名	学年	2	開講区分	後期	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
	必修・選択	必修	授業形態	講義				

〔授業の学習内容と心構え〕

プロスポーツ現場で約10年間トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場としてトレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいた知識・技術・経験を詰め込んだ授業を展開する。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔到達目標〕

プロスポーツの現場で約10年トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場として、トレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいたかたちでトレーナーの知識・技術・経験などを学ばせていく。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるように、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔使用教材、参考文献等〕

テーピングのポイントはこれだ！（滋慶出版）、スポーツ外傷・障害の理学診断理学療法ガイド、スポーツ外傷・障害に対する術後のリ

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	肩関節の外傷と評価	肩関節の外傷と評価方法が理解できる。
2	肩関節の外傷における治療と運動療法	肩関節外傷における治療と運動療法が理解できる。
3	肩関節前方脱臼及び肩鎖関節脱臼に対するテーピング	肩関節の機能を理解し肩関節前方脱臼もしくは肩鎖関節脱臼のテーピングができる。
4	肩関節に対するテーピングの確認テスト(実技)	肩関節前方脱臼もしくは肩鎖関節脱臼に対するテーピングを理解できているか確認テストを行なう。
5	部位別ケーススタディ(肩関節前方脱臼)	肩関節前方脱臼におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
6	肘関節の外傷と評価及び治療法	肘関節の外傷と評価や治療法が理解できる。
7	肘関節テーピング 注意事項の講義と実技	肘関節の機能を理解し肘関節のテーピングができる。
8	アキレス腱炎やアキレス腱断裂の評価及び治療法	アキレス腱断裂の評価や治療法が理解できる。
9	アキレス腱に対するテーピング	アキレス腱の機能を理解しアキレス腱のテーピングができる。
10	突き指の評価及び治療法	突き指の評価や治療法が理解できる。
11	頭・頸部外傷と評価	頭・頸部外傷と評価方法が理解できる。
12	部位別ケーススタディ(脳震盪)	脳震盪におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
13	各部位(肘、アキレス腱、突き指など)テーピングの確認テスト(実技)	各部位(肘、アキレス腱、突き指など)のテーピングを理解できているか確認テストを行なう。
14	成長期特有のケガの把握(オスグット、腰椎分離症、シーバー病など)	成長期特有のケガについて理解できる。
15	定期テスト	筆記テストで知識のアウトプットを行う。

〔成績評価について〕

評価は確認テストと筆記試験などにより採点を行い、合計100点で評価する。実技確認テストは、各20点満点とし、筆記試験は60点満点とする。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員					
授業科目名		必修・選択		必修	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	放送大学	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕</p> <p>本科目は、放送大学における「運動と健康」と内容が重複しており、当該科目を履修・修得することで単位互換が可能です。そのため、本養成課程内での開講は行わず、放送大学での履修をもって単位認定いたします。</p>													
<p>〔到達目標〕</p> <p>運動に関わるヒトの機能や運動・スポーツに対する身体の応答や適応について、運動生理学的な基礎知識を習得するとともに、運動・スポーツを計画・実践する基礎を身につけることを目指す。</p>													
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>放送大学テキスト</p>													
回	〔授業単元〕					到達目標(できるようになること)							
1	生体と恒常性					細胞の構造と機能について解説するとともに、体内環境を適切に保つ生体恒常性について概説する。							
2	栄養とエネルギー代謝					生命活動の直接的なエネルギーであるアデノシン三リン酸の合成経路、およびエネルギー供給系について概説する。							
3	骨格筋の構造と働き					運動に携わる骨格筋の基本的な構造とその働き、および筋肥大と筋萎縮について概説する。							
4	神経系の構造と働き					神経系の構造と機能、および運動に対する神経系の役割などについて概説する。							
5	呼吸器系の構造と働き					呼吸器系の構造と機能、および運動への適応について概説する。							
6	循環器系の構造と働き					循環器系の構造と機能、および運動への適応について概説する。							
7	運熱と環境					暑熱や寒冷、水中、そして、高地環境における運動時の生理学的応答や適応について概説する。							
8	トレーニングの計画と実際Ⅰ					トレーニングの原理・原則、およびトレーニング実施上の注意点について概説する。							
9	トレーニングの計画と実際Ⅱ					体力要素別に各種トレーニングについて概説する。							
10	運動と発育・発達					子どもの健全な発育発達を促す身体活動の在り方について概説する。							
11	子供の体力・運動能力					過去と現在の比較、諸外国との相違を通して日本の子どもの体力・運動能力の現状について解説するとともに、何が違いに影響を及ぼしているのか、そして子どもにおける体力・運動能力の意義について概説する。							
12	障害者とスポーツ					障害のある人たちとスポーツとの関わりについての現状と課題を学ぶ。また、パラリンピックをはじめとする障害者スポーツの競技大会等を紹介し、それらが障害のある人たちや社会にもたらす影響について概説する。							
13	特別支援教育と学校教育					特別支援学校(知的障害)の保健体育科の目標や指導内容、指導計画等を概説し、障害のある子どもへの体育・スポーツ指導の実際について理解することを目指す。							
14	生活習慣病と運動					身体活動量の低下が多くの生活習慣病のリスクとなり、死亡率を上昇させる。年齢に応じて、運動や生活活動を増やすことが、全身持久力を向上し、死亡率や生活習慣病予防につながることを理解する。							
15	運動処方					安全に身体活動を実施する上で、留意すべき症状、疾患、状態、環境などをふまえ、勧められる身体活動を理解し、推奨される身体活動の頻度、強度、時間、種類、活動量、漸進性すなわち運動処方(FITT-VP)を理解する。							
〔成績評価について〕					〔特記事項・授業時間外における学習〕								
放送大学のオンライン試験にて評価を行う。													

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕									
本科目は、放送大学における「食と健康」と内容が重複しており、当該科目を履修・修得することで単位互換が可能です。そのため、本養成課程内での開講は行わず、放送大学での履修をもって単位認定といたします。									
〔到達目標〕									
食品には、栄養機能、嗜好的機能、生体調節機能の三つの機能がある。いずれの機能も、健康を維持する上で重要な働きを有している。これら食品の持つ機能を理解し、個人だけでなく社会全体の食生活を考える視点を養う。									
〔使用教材、参考文献等〕									
放送大学テキスト									
回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)							
1	食と健康の科学	食品は栄養面での機能(一次機能)、嗜好面での機能(二次機能)と疾病発症のリスクを低減する機能(三次機能)を持つ。ヒトは農業生産活動を介して自らの食を作り出し、環境に適応して人口を増大させ、さらに寿命を延伸させてきた。そのような食とヒトの強い繋がりにから、食品の価値について改めて学ぶ。							
2	糖質(1)食品に含まれる糖質・消化・吸収	糖質(炭水化物)はヒトが摂取する栄養素の中で最も摂取量の多い栄養素であり、主たるエネルギー供給源、生体分子の構成要素として重要である。糖質は単糖類、少糖類(オリゴ糖)、多糖類に分類される。それぞれの構造と化学特性、消化・吸収過程、糖質の生体内での機能について解説する。							
3	脂質(1)食品に含まれる脂質・消化・吸収	脂質はエネルギー効率の最も高い栄養素である。水に不溶で、有機溶媒に溶解する特徴をもつ。脂質には中性脂肪、リン脂質、コレステロールなどがある。それらの構造と化学特性を解説する。また、その消化・吸収機構について講義を行う。							
4	タンパク質(1)食品に含まれるタンパク質・消化・吸収	タンパク質は約20種類のアミノ酸がペプチド結合してできた鎖状の物質である。食品として摂取されたタンパク質の栄養価は構成するアミノ酸の種類によって決まるが、分解途中にできるペプチドにも固有の生理活性が報告されている。食品タンパク質中のさまざまなタンパク質の構造、それらの消化・吸収過程、各種アミノ酸の性質などを基盤に、食品タンパク質の栄養学的、食品学的な特性を解説する。							
5	タンパク質(2)生体内の代謝・その調節・機能	食品タンパク質は様々な経路で代謝される。代謝経路は多くの酵素によって構成されており、それぞれの活性が多段階で制御され、一連の経路を形成している。食品タンパク質が分解されて最終的に生成するアミノ酸は、タンパク質合成の材料になるだけでなく、ホルモンなど生理活性物質の原料としても利用される。またアミノ酸独自の生理機能も知られている。ここではタンパク質代謝経路とその調節機構、タンパク質・アミノ酸の機能について解説する。							
6	糖質(2)生体内の代謝・その調節・機能	食品中の糖質はエネルギー源として作用する以外にも生体分子の構成要素として作用する。また余剰に摂取された糖質の一部は脂質に代謝され蓄積され、これが肥満の原因ともなる。さらに糖質中の一部の糖は生体構成要素としても作用する。ここでは糖質の代謝経路とその調節機構を解説すると同時に、生体内で糖質が発揮する機能についても紹介する。							
7	脂質(2)生体内の代謝・その調節・機能	脂質の中でトリグリセリドはエネルギー源として脂肪組織に蓄えられる。これが過剰になった状態が肥満であり、多くの疾患の原因となる。また、コレステロールが動脈壁に過剰に蓄積すると動脈硬化の原因となる。このように脂質の代謝調節の乱れが健康を損なう原因となる。脂質代謝の全体像を解説する。							
8	ビタミン	ビタミンは体内では合成できず、食物から摂取する必要のある微量栄養素である。ビタミンは、水溶性と脂溶性の化合物に分類される。いくつかのビタミンは欠乏症とその原因物質の究明の過程で見えられた。それぞれのビタミンが担う生理機能と、生命の維持・調節の作用機序について解説する。							

9	ミネラル	ミネラルには骨や歯の成分として身体を構成するカルシウムや、鉄のようにヘモグロビンなどの有機化合物の構成成分として存在するものがある。また、酵素反応の賦活剤、生理活性物質の構成成分、体液のpHや浸透圧に関与するなど、生体機能の調節にも関与する。ミネラルの吸収機構、生体内での機能と摂取基準について解説する。
10	微量非栄養素	食品に含まれる微量非栄養素の多くは食品の色を決定し、味・香りをもたらす成分として機能している。最近の研究により、これら成分が健康維持に寄与することも明らかにされている。微量非栄養素の構造、機能について講義する。
11	味覚	食物の消化・吸収の第一段階は、口腔内消化であり、味覚と食感によって摂取すべきものかどうかを判断する。特に味覚は、おいしさを決定する重要な要素である。味覚の仕組みや味物質などについて学び、味覚と健康の関連について考える。
12	食と免疫	免疫系は生体防御の中心的な役割を担うシステムであり、骨髄由来の好中球・単球などの細胞群と胸腺などのリンパ組織由来のリンパ球などから構成されている。ヒトのリンパ球の半数以上は腸管に存在すると言われており、その増殖分化に腸内の環境が大きく関与する。したがって腸内細菌とともに食物の免疫細胞の機能等に与える影響が大きいことも想像に難くない。本講義では免疫系の基本を学ぶとともに、免疫システムの形成・維持における食物の関わりを学ぶ。
13	食物アレルギー	近年の食を含む生活習慣の変化は生活習慣病の増加のみでなく、食そのものに対するアレルギーの増加にも繋がっている。こどもの食物アレルギーのもつ社会的インパクトは非常に大きい。最近では成人でも食物アレルギーの増加が明らかにされている。本講義では、食物アレルギーの病態・治療・予防などについて学ぶ。
14	食と生活習慣病	最近の研究から、生活習慣病は慢性の炎症がその基本にあることが明らかになってきている。この慢性炎症には腸内細菌叢の偏りなどが大きく関与することも判明してきている。本講義では食物と腸内細菌叢の構成との関連も含めて、食と慢性炎症・生活習慣病の関係についての現在の知識を整理・学習する。
15	食と高齢社会	日本は今世紀半ばに人口の約40%が65歳以上になる超高齢社会を迎える。介護を必要としないで日常生活が送れる健康寿命の延伸が必要である。運動・認知機能の維持に加え、食生活も重要な要因である。咀嚼・嚥下機能と栄養、口腔内刺激と脳機能との関連などをとりあげる。
[成績評価について]		[特記事項・授業時間外における学習]
放送大学のオンライン試験にて評価を行う。		

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	生理学Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
[授業の学習内容と心構え]										

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、医療の基礎となる生理学のうち、内分泌・生体の防御機構・体温調節を習得する授業を行う。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講して欲しい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んで欲しい。

[到達目標]

医学の基礎となる生理学の知識を習得する。
身体の正常な働きを説明できるようになる。

[使用教材、参考文献等]

生理学(医歯薬出版)、配布資料

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	第8章 内分泌 A. ホルモンの特徴	内分泌腺を理解できる。 ホルモンの性質、作用機序、分泌調節を理解できる。
2	第8章 B. ホルモンの種類とその働き (視床下部ホルモン～下垂体ホルモン)	視床下部～下垂体から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。
3	第8章 B. ホルモンの種類とその働き (甲状腺ホルモン～副腎髄質ホルモン)	甲状腺～副腎髄質から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。
4	第8章 B. ホルモンの種類とその働き (副腎皮質ホルモン～性腺ホルモン)	副腎皮質～性腺から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。
5	第8章 B. ホルモンの種類とその働き (その他のホルモン)	内分泌器官以外から分泌されるホルモンがわかる。
6	第6章 体温 A. 体温調節～B. 体熱の産生と放散 a. 熱産生	体温の一般、熱産生について理解できる。
7	中間テスト	テストにより効果測定、理解度の把握。
8	テスト返却・解説	テストの解説。間違えたところの復習。
9	第6章 B. 体熱の産生と放散 b. 熱放散～ D. 体温調節の障害	熱放散・発汗・体温調節の障害について理解できる。
10	第14章 生体の防御機構 A. 生体の防御機構～	非特異的・特異的防御機構、白血球の働きが理解できる。
11	第14章 B. 免疫反応～ 第15章 身体活動の協調 A. 生体の適応～ B. 恒常性維持	免疫反応および生体が環境に順応・適応する仕組み、ホメオスタシス機構について理解できる。
12	第15章 C. バイオリズム 第6・14・15章の復習	バイオリズムについて理解できる。 苦手部分を確認する。
13	これまでの総復習	内分泌を含め、これまでの内容を復習し、苦手部分を理解する。
14	期末テスト	テストにより効果測定、理解度の把握。
15	テスト返却・解説	テストの解説。

[成績評価について]

評価は定期試験(中間・期末テスト)により行う。基本的には筆記試験で、中間テスト(40点)、期末テスト(60点)の合計100点で評価する。小テストを実施し、中間・期末テストに加算する。期末テストには中間テストの内容も含まれる。評価は学則規定に準ずる。
100点満点中で60点未満の者は再試験を1度実施する。(再試験は中間・期末の全ての範囲で実施する)再試験は100点満点で60点以上の場合でも評価は60点扱いとする。

[特記事項・授業時間外における学習]

プリント(またはデータ)を中心に授業を行うので、プリントの重要項目を中心に全体的な流れをつかむことが大切である。メモを取るような習慣をつけ、自学習に役立てて欲しい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	解剖生理学Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
柏崎 雅大・酒井 大輝										

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、基礎医学である解剖学、及び生理学を習得する授業を行う。解剖学では生殖器系、感覚器系について、生理学では筋、運動についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

解剖学:生殖器の構造、特殊感覚の構造と伝導路について理解し、自ら要点を整理することができる。生理学:筋の機能、運動の仕組みについての知識を習得し、自ら要点を整理することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学・生理学(医歯薬出版)、イラスト解剖学、病気が見える

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	解剖学 第6章 生殖器:男性生殖器	男性生殖器の構造について理解することができる。
2	解剖学 第6章 生殖器:女性生殖器	女性生殖器の構造について理解することができる。
3	解剖学 第6章 生殖器:受精と発生	受精と発生について理解することができる。
4	生殖器確認試験 解剖学 第9章 感覚器:視覚器	確認試験により、自分の実力を確認することができる。視覚器の構造について理解することができる。
5	解剖学 第9章 感覚器:平衡聴覚器	平衡聴覚器の構造について理解することができる。
6	解剖学 第9章 感覚器:味覚・嗅覚器	嗅覚器・味覚器の構造について理解することができる。
7	感覚器確認試験 授業範囲復習	確認試験により、自分の実力を確認することができる。復習を行い、試験の準備をすることができる。
8	生理学 第13章 感覚(感覚の分類～体性感覚)	感覚の分類、体性感覚の機能を理解することができる。
9	生理学 第13章 感覚(内臓感覚～痛覚)	内臓感覚、痛覚の機能を理解することができる。
10	生理学 第9章 生殖・成長と老化(生殖)	人の生殖機能について理解することができる。
11	生理学 第9章 生殖・成長と老化(成長, 老化) 生理学 第13章 感覚(特殊感覚:味覚, 嗅覚)	人の成長と老化における一般的変化を理解することができる。味覚器、嗅覚器の機能について理解することができる。
12	生理学 第13章 感覚(特殊感覚:聴覚)□	平衡聴覚器の機能について理解することができる。
13	生理学 第13章 感覚(特殊感覚:視覚)□	視覚器の機能について理解することができる。
14	生理学 第9章, 第13章 まとめと確認テスト	感覚および生殖・成長と老化の要点を振り返り、理解度を確認できる。
15	期末テスト	テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。

〔成績評価について〕

評価はFormsと筆記試験で行う。Formsは確認テスト4回(40点分)、筆記試験(60点分)の合計100点で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	運動学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数	30(1)	授業回数	15
東野 友寛										

〔授業の学習内容と心構え〕

治療院勤務、出張施術、トレーナー帯同を経験し、高齢者・学生からアスリート・アーティストまで幅広く対応している教員が、臨床から得た経験を基に臨床に必要な運動学の知識、資格取得後に必要な視点や思考を伝えていく。現場で生きる事を伝えていきたいので積極的に質問等をして参加してほしい。

〔到達目標〕

運動学がどういったものかを体感し、理解することで、知識だけではなく実際に使っていけるようになること。

〔使用教材、参考文献等〕

新版リハビリテーション医学(文光堂)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	バイオメカニクス、機能解剖学(関節、関節運動)	関節運動がなぜ起こるのか、関節の種類によってどのような動きをするかを理解する。
2	機能解剖学(筋張力、脊柱・体幹)	筋収縮の種類を理解する。脊柱の構造や特徴を理解する。
3	小テスト、機能解剖学(上肢)	上肢各所の構造や特徴を理解する。
4	機能解剖学(下肢)	下肢各所の構造や特徴を理解する。
5	確認テスト 解説	現時点での理解度、習得できていないところを把握し、理解を深める。
6	運動発達	運動発達の過程、原始反射・姿勢反応を理解する。
7	姿勢抑制	姿勢保持に必要な要素を理解する。
8	歩行・運動学習	正常歩行を理解することで、異常歩行を見つけることができるようになること。
9	期末テスト 解説	現時点での理解度、習得できていないところを把握し、理解を深める。
10	実習①呼吸	呼吸の観察の仕方、東洋医学的な視点を心得る。
11	実習②呼吸評価、実践	呼吸と姿勢の繋がりをイメージできるようになる。
12	実習③	運動学を体感し、実践できるようになる。
13	実習④	運動学を体感し、実践できるようになる。
14	実習⑤	運動学を体感し、実践できるようになる。
15	実習⑥	運動学を体感し、実践できるようになる。

〔成績評価について〕

”評価は試験と小テストとレポートで行う。小テスト(10点)+確認テスト(20点)+期末試験(40点)+レポート課題(30点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。”□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。実技は必ず参加する事。□

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講区分 前期	担当教員 櫻井 恵司			
授業科目名 病理学概論	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15		

[授業の学習内容と心構え]

鍼灸マッサージ師、NSCA-CPT/CSCSの資格を持ち、20年以上教育に携わる開業鍼灸師マッサージ師が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業であるため、復習と予習を行って授業に臨んでほしい。

[到達目標]

病因、循環障害、病変、炎症、腫瘍、免疫、先天性異常の病態について理解し、自ら要点を整理し、国家試験レベルの知識を得ることを目的とする。

各章毎に配布するレジュメと国家試験過去問題を使用。
病理学概論【第2版】公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第1章 病理学とは 第2章 疾病についての基本的な考え	疾病の分類と自覚症状・他覚症状を理解できる。
2	第3章 病因 内因 素因	年齢、性の相違による発症しやすい疾患を理解できる。
3	内分泌	内分泌疾患を理解できる。
4	定期テストⅠ(小テスト) 外因 供給障害	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 ビタミン欠乏症を理解できる。
5	供給障害・物理的病因作用	ミネラル供給障害を理解できる。 温度の病因作用を理解できる。
6	物理的病因作用・化学的病因作用	放射線、気圧、粉塵の病因作用を理解できる。 主な医原病を理解できる。
7	定期テストⅡ(確認テスト) 化学的病因作用・生物学的病因作用	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 環境汚染と感染症を理解できる。
8	第4章 循環障害	重要なうっ血を理解できる。
9	貧血・出血・血栓・塞栓症	貧血・出血の分類と疾患、血栓の形成誘因を理解できる。
10	定期テストⅢ(小テスト) 塞栓症	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 塞栓症の種類を理解できる。
11	梗塞・水腫	梗塞の分類、水腫の発症機序を理解できる。
12	脱水症・ショック	一次性脱水症と二次性脱水症の相違、ショックの分類を理解できる。
13	第5章 退行性病変 委縮・変性	生理的委縮と褐色委縮を理解できる。 アミロイドーシス、ビリルビン代謝を理解できる。
14	定期テストⅣ(期末テスト) 黄疸	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 黄疸の分類、機序、所見を理解できる。
15	加齢と老化、生活習慣病を理解できる。	認知症、パーキンソン病の機序、症状を理解できる。

[成績評価について]

成績評価は4回の筆記試験で行う。
4回のテストの配点は小テスト計28点、確認テスト28点、期末テスト44点の合計100点とする。
配点は授業の進行により変更することがあり、その場合は事前に告知する。

[特記事項・授業時間外における学習]

積極的に授業に参加し、毎授業後に復習を行うこと。自宅では配布するレジュメを理解するだけでなく、国家試験の過去問題の解答解説を行うこと。
FORMSで出題する問題を解答し、選択肢について理解すること。
◎定期試験前の学習だけでは、一時的、かつ表面的な理解にとどまり、国家試験レベルの習得度に到達することが難しい為、日々の学習が必要となる。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	病理学概論		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

鍼灸マッサージ師、NSCA-CPT/CSCSの資格を持ち、20年以上教育に携わる開業鍼灸師マッサージ師が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業であるため、復習と予習を行って授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

病因、循環障害、病変、炎症、腫瘍、免疫、先天性異常の病態について理解し、自ら要点を整理し、国家試験レベルの知識を得ることを目的とする。

各章毎に配布するレジュメと国家試験過去問題を使用。
 病理学概論【第2版】公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 生活習慣病・壊死と死	胆石症、糖尿病、痛風、動脈硬化症を理解できる。 壊死の分類と心臓死・脳死・遷延性意識障害の定義を理解できる
2	第6章 進行性病変 肥大・再生	仕事肥大を理解できる。 再生の種類・再生能力・再生方法を理解できる。
3	定期テストⅠ(小テスト) 化生・移植	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 化生の意義と主な化生、移植の分類と拒絶反応を理解できる。
4	創傷治癒・異物の処理	創傷治癒の諸段階を理解できる。 異物の処理の種類を理解できる。
5	第7章 炎症 炎症反応・分類	炎症の発症機序を理解できる。 主座による炎症の分類と具体的な炎症を理解できる。
6	特異性炎	結核、梅毒を理解できる。
7	定期テストⅡ(確認テスト) 第8章 腫瘍	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 腫瘍組織の特徴と異型性を理解できる。
8	腫瘍	良性と悪性の特徴と相違、上皮性と非上皮性の特徴を理解できる。
9	腫瘍	前癌病変・転移について理解できる。 主な外因について理解できる。
10	定期テストⅢ(小テスト) 第9章 免疫異常・アレルギー	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 免疫応答の概要を理解できる。
11	免疫系の構成因子	主な免疫担当細胞と特徴を理解できる。 免疫アルブミンの種類と特徴を理解できる。
12	アレルギー・免疫不全	アレルギー型と疾患を理解できる。 後天性免疫不全症候群を理解できる。
13	自己免疫異常 第10章 先天性異常	主な自己免疫疾患と自己抗体を理解できる。 主な先天性代謝異常を理解できる。
14	定期テストⅣ(期末テスト) 形態異常・染色体異常	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 主な染色体異常と標識染色体を理解できる。
15	胎児への影響・遺伝病	単一遺伝子異常の分類と疾患を理解できる。

〔成績評価について〕	〔特記事項・授業時間外における学習〕
成績評価は4回の筆記試験で行う。 4回のテストの配点は小テスト計28点、確認テスト28点、期末テスト44点の合計100点とする。 配点は授業の進行により変更することがあり、その場合は事前に告知する。	積極的に授業に参加し、毎授業後に復習を行うこと。自宅では配布するレジュメを理解するだけでなく、国家試験の過去問題の解答解説を行うこと。 FORMSで出題する問題を解答し、選択肢について理解すること。 ◎定期試験前の学習だけでは、一時的、かつ表面的な理解にとどまり、国家試験レベルの習得度に到達することが難しい為、日々の学習が必要となる。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	2	開講区分	前期	担当教員 山田英史先生			
授業科目名 臨床医学総論	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した開業鍼灸師が、全ての医療職に必要とされる診察法と症候について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。またチーム医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。

[到達目標]

医療面接技法、診察の概要・方法、生命聴講、全身の診察、局所の診察の知識を習得することを目標とする。各診察について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。

[使用教材、参考文献等]

臨床医学総論(医歯薬出版)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	・第1章;診察の概要 医療面接の意義、関連用語、診察の意義と方法	医療面接の意義、関連用語、診察の意義と方法について理解できる。
2	・第2章;診察の方法 視診、触診、打診	視診、触診、打診の意義と方法について理解できる。
3	・第2章;診察の方法 聴診、測定法、神経系の診察 小テスト	聴診、測定法、神経系の診察の意義と方法について理解できる。
4	・第3章;生命聴講(バイタルサイン)の診察 体温、脈拍	体温、脈拍の診察の意義と診察方法について理解できる。
5	・第3章;生命聴講(バイタルサイン)の診察 血圧、呼吸	血圧、呼吸の診察の意義と診察方法について理解できる。
6	・第4章;全身の診察 顔貌、精神状態、言語 小テスト	顔貌、精神状態、言語の診察の意義と診察方法について理解できる。
7	・第4章;全身の診察 身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位	身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位の診察の意義と診察方法について理解できる。
8	中間テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	・第4章;全身の診察 歩行	歩行の診察の意義と診察方法について理解できる。
10	・第4章;全身の診察 皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態	皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態の診察の意義と診察方法について理解できる。
11	・第4章;全身の診察 リンパ節、その他の一般的状態 小テスト	リンパ節、その他の一般的状態の診察の意義と診察方法について理解できる。
12	・第5章;局所の診察 頭部・顔面	頭部・顔面の診察の意義と診察方法について理解できる。
13	・第5章;局所の診察 眼、鼻 小テスト	眼、鼻の診察の意義と診察方法について理解できる。
14	・第5章;局所の診察 耳、口腔	耳、口腔の診察の意義と診察方法について理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[成績評価について]

小テスト(20%)
中間試験(30%)
期末試験(50%)

[特記事項・授業時間外における学習]

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース			担当教員	山田英史先生			
授業科目名	学年	2	開講区分	後期	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
	必修・選択	必修	授業形態	講義				

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した開業鍼灸師が、全ての医療職に必要とされる診察法と症候について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。またチーム医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。

〔到達目標〕

医療面接技法、診察の概要・方法、生命聴講、全身の診察、局所の診察の知識を習得することを目標とする。各診察について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

臨床医学総論(医歯薬出版)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	・第5章;局所の診察 頸部、胸部、乳房、肺・胸膜	頸部、胸部、乳房、肺・胸膜の診察の意義と診察方法について理解できる。
2	・第5章;局所の診察 腹部・背部	腹部・背部の診察の意義と診察方法について理解できる。
3	・第5章;局所の診察 四肢	四肢の診察の意義と診察方法について理解できる。
4	・第6章;神経系の診察 感覚検査法、反射検査	感覚検査法、反射検査の診察の意義と診察方法について理解できる。
5	・第6章;神経系の診察 脳神経系の検査、 髄膜刺激症状検査、その他の検査	脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査の診察の意義と診察方法について理解できる。
6	・第6章;神経系の診察 運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動	運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動の診察の意義と診察方法について理解できる。
7	・第6章;神経系の診察 協調運動～徒手による整形外科的検査法	協調運動～徒手による整形外科的検査法の診察の意義と診察方法について理解できる。
8	中間テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	・第8章;その他の診察 救急時の診察～高齢者の診察 ・第9章;臨床検査法 一般検査 小テスト	救急時の診察～高齢者の診察、一般検査の診察の意義と診察方法について理解できる。
10	・第9章;臨床検査法 血液生化学検査、生理学的検査 および画像診断の概要	血液生化学検査、生理学的検査および画像診断の概要の診察の意義と診察方法について理解できる。
11	・第11章;治療学	治療学における診察の意義と診察方法について理解できる。
12	・第12章;臨床心理	臨床心理における診察の意義と診察方法について理解できる。
13	・第10章;おもな症状の診察①	各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。
14	・第10章;おもな症状の診察②	各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

小テスト(20%)
中間試験(30%)
期末試験(50%)

〔特記事項・授業時間外における学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員 藤掛 雅博			
授業科目名 臨床医学各論 I	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。
座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

各疾患の知識を習得することを目標とする。
各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	消化器疾患	口腔疾患、食道疾患を理解する。
2	消化器疾患	胃・十二指腸・腸疾患、腹膜疾患を理解する。
3	肝胆膵疾患	肝臓疾患を理解する。
4	肝胆膵疾患	胆・膵臓疾患を理解する。
5	呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患を理解する。
6	呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患を理解する。
7	中間試験	1～5コマで習得の再確認ができる。
8	腎・泌尿器疾患	腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患を理解する。
9	腎・泌尿器疾患	腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患を理解する。
10	内分泌疾患	副腎疾患を理解する。
11	内分泌疾患	副腎疾患を理解する。
12	代謝・栄養疾患	糖代謝異常、脂質代謝異常を理解する。
13	代謝・栄養疾患	その他の代謝異常症を理解する。
14	代謝・栄養疾患	その他の代謝異常症を理解する。
15	期末試験	期末試験の解答解説を行う。

〔成績評価について〕

評価はFormsと筆記試験で行う。
確認テスト(30点分)、小テスト(20点分)筆記試験(50点分)の合計100点で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

（この欄は空欄です）

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員 藤掛 雅博 / 酒井 大輝				
授業科目名 臨床医学各論 I	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。
座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

[到達目標]

各疾患の知識を習得することを目標とする。
各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。

[使用教材、参考文献等]

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	内分泌疾患	甲状腺疾患を理解する。
2	内分泌疾患	下垂体疾患を理解する。
3	代謝・栄養疾患	その他の代謝異常症を理解する。
4	代謝・栄養疾患	その他の代謝異常症を理解する。
5	第1章;感染症 総論、細菌感染症	感染症総論、細菌感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
6	第1章;感染症 細菌感染症・ウイルス感染症	細菌感染症、ウイルス感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
7	第1章;感染症 ウイルス感染症、性感染症	ウイルス感染症、性感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
8	第1章小テスト、第8章;整形外科疾患 総論、骨代謝・骨腫瘍	第1章の小テストによる効果測定を行う。整形外科疾患の総論、骨代謝・骨腫瘍の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
9	第8章;筋・腱疾患	筋・腱疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
10	第8章;関節疾患	関節疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
11	第8章;形態異常、脊髄損傷	形態異常、脊髄損傷の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
12	第8章;脊椎疾患	脊椎疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
13	第8章;外傷	外傷の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
14	第8章;外傷、その他整形外科疾患	外傷と、その他の整形外科疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[成績評価について]

評価はFormsと筆記試験で行う。
確認テスト(30点分)、小テスト(20点分)筆記試験(50点分)の合計100点で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。□

[特記事項・授業時間外における学習]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。”

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講区分 前期	担当教員 東野 友寛		
授業科目名 リハビリテーション医学 I	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数 30(1)	授業回数 15	

〔授業の学習内容と心構え〕

治療院勤務、出張施術、トレーナー帯同を経験し、高齢者・学生からアスリート・アーティストまで幅広く対応している教員が、リハビリテーションの捉え方や評価方法を理解し国家試験・臨床に活かしていくための授業を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

リハビリテーションの理念や対象をに対してどのような評価を行い、そこに対して行われる各種介入を理解する。これによってリハビリテーション医学を試験で解く際や臨床で活かせるようにすること。

〔使用教材、参考文献等〕

新版リハビリテーション医学(文光堂)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	理念・目的、語源・歴史、生活機能分類	リハビリテーションの概念を理解する事。障害と生活機能を理解する事。
2	生活機能分類	障害と生活機能を理解する事。
3	リハビリテーションの分野、リハビリテーション医療	各分野、時期にどのような介入が行われているのかを理解する。
4	小テスト、リハビリテーション医療チーム、地域リハビリテーション	地域リハビリテーションについて理解する。
5	診断評価学(リハビリテーション診察の流れ、検査・測定総論)	診察時の要点を理解する。
6	検査・測定各論(形態計測～筋力評価、ADL評価)	各評価の目的・方法を理解する。
7	検査・測定各論(ADL評価復習～摂食嚥下機能評価)	各評価の目的・方法を理解する。
8	確認テスト	各評価の目的・方法を理解する。
9	検査・測定各論(筋緊張・片麻痺機能評価)	各評価の目的・方法を理解する。
10	運動療法	介入を行う対象・方法を理解する。
11	運動療法	介入を行う対象・方法を理解する。
12	小テスト、物理療法	物理療法の種類方法・禁忌などを理解する。
13	物理療法、作業療法	作業療法の概念や対象、介入方法を理解する。
14	言語聴覚療法、補装具療法、自助具・福祉用具	各分野の対象や特徴、関わる職種などを理解する。
15	期末テスト 解説	現時点での理解度、習得できていないところを把握し、理解を深める。

〔成績評価について〕

評価は小テスト、確認テスト、小テストで行う。小テスト(10点×2回)＋確認テスト(30点)＋期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則に準じる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。例年小テスト確認テストで点数ずつ取っていただければ合格のものが多いので気を抜かず望んでほしい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	保険の仕組みと職業倫理		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
東 路子										

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、将来、健康保険や介護保険等を適切に取り扱うための、社会保障制度の全体像や社会保険の仕組みについて授業を展開する。制度の目的や役割、給付と負担の関係を理解するとともに、保険を扱う専門職として求められる職業倫理や責任についても考察する。単なる知識の習得にとどまらず、制度を利用する立場への配慮を持ち、誠実な姿勢で学習に取り組むことを重視する。

〔到達目標〕

社会保障制度の仕組みおよび社会保険(健康保険・介護保険等)の基本的な内容を理解し、保険を取り扱う専門職として求められる役割と職業倫理について説明することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

関係法規・医療概論

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	社会保障制度の全体像と社会保険の概要	社会保障制度の目的・歴史・構成(社会保険・社会福祉・公的扶助等)について学び、制度全体の位置づけを理解する。
2	医療保険制度	健康保険の種類、給付内容、自己負担割合、医療提供体制との関係について学ぶ。
3	介護保険制度	介護保険制度の目的、要介護認定の仕組み、給付内容および医療職との関わりについて学ぶ。
4	年金保険制度	国民年金・厚生年金の仕組みや役割を理解し、老後保障の意義について考える。
5	労働保険制度	労災保険・雇用保険の概要を学び、働く人を支える制度としての役割を理解する。
6	社会福祉制度・生活保護	社会福祉制度の考え方と生活保護制度の仕組みを学び、最後のセーフティネットとしての意義を理解する。
7	職業倫理	保険請求の方法について学ぶことができる。
8	制度の総まとめと職業倫理	各制度を総合的に整理し、医療・介護分野で保険を扱う際に求められる職業倫理と責任について考察する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔成績評価について〕

期末試験 1回100点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講区分 前期	担当教員 岩井 李恩		
授業科目名 経絡経穴概論Ⅱ	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 15(1)	授業回数 8	

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、経絡経穴の知識を臨床現場で活かすための考察をテーマに、基本的な知識の理解、暗記から現場での活用方法までの流れを伝え、学生自身が主体的な学びを行う授業を展開する。

〔到達目標〕

学生自身が経絡経穴を学ぶ意義を見出し、自分が活躍する現場ではどう活用できるかを考えられるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

新版 経絡経穴概論Ⅱ、東洋医学概論

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	経絡経穴の考え方、臨床応用、要穴の特性クイズ	・1年生の経絡の流注を確認する
2	手の厥陰心包経と手の三陰経	・手の厥陰心包経とその他の肺経、心経の走行をイメージできる
3	手の少陽三焦経と手の三陽経	・手厥陰心包経とその他の大腸経、小腸経の走行をイメージできる
4	足の少陽胆経①	・足の少陽胆経の頭部、体幹部の走行、経穴の部位を理解できる
5	足の少陽胆経②	・足の少陽胆経の下肢の走行、経穴の部位を理解できる
6	足の厥陰肝経	・足の厥陰肝経の走行、経穴の部位を理解できる
7	全経絡の復習、穴性など	・現場で使用するための経穴の考え方を理解する
8	最終評価試験	・座学で学んだ知識を、現場を想定して応用できるか評価する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔成績評価について〕

成績評価:暗唱・レポート連動型(計100点)
 ・暗唱(50点):各経絡の走行、経穴の順番、要穴
 ・レポート(50点):最終評価

重要:評価の上限設定
 レポートで加点される点数は、各自の「暗唱の獲得点」を上限とします。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

【暗唱内容】
 ・各経絡の走行を説明できる
 ・各経絡上にある経穴を唱えられる
 ・各経絡上の要穴を唱えられる

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		東 路子	
授業科目名	東洋医学概論Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、東洋医学的診察方法について体系的に講義を行う。四診(望診・聞診・問診・切診)を中心に、症状の捉え方や情報収集の視点を学び、八綱弁証や病因病機を用いた鑑別の考え方について理解を深める。さらに、収集した診察情報をもとに病証を整理し、治療方針の立て方や選穴の考え方へとつなげる思考過程を学習する。本科目では用語の暗記にとどまらず、「なぜその判断に至るのか」を重視し、東洋医学的思考力の育成を目的とする。

〔到達目標〕

本授業では、東洋医学の診察方法である四診を中心に、診察情報の収集と整理の方法を学ぶ。受講後には、望診・聞診・問診・切診によって得られた情報を八綱弁証や病因病機の視点で整理し、病証を構成する基礎的能力を身につけるとともに、治療方針や選穴につなげるための東洋医学的思考力を養うことを到達目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕

新版 東洋医学概論(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	病因と病証	・病因(外因・内因・不内外因)を判断できる・病証を分類して説明できる
2	八綱① 虚実・寒熱	・虚実・寒熱を「体の状態」として説明できる・実熱と虚熱の違いを言語化できる
3	四診① 望診・聞診	・四診の役割が言える・望診・聞診で拾う情報が分かる
4	四診② 問診(全体)	・問診で何を聞くべきか分かる・寒熱・虚実の視点で質問できる
5	問診③ 部位別・疼痛	・部位別の症状を体系的に聞ける・疼痛を虚実寒熱で説明できる
6	問診④ 月経	・月経を含めた問診情報を病証としてまとめられる
7	切診	・切診の役割と構成が説明できる
8	中間試験	・確認試験を通じて四診を理解する。
9	弁証論治トレーニング①	八綱弁証、気血津液弁証、臟腑弁証についてそれぞれの分類の特徴と仕分けできる。
10	弁証論治トレーニング②	治則と選穴(難経69難)のルールを学び、治療方針をたてることができる。
11	弁証論治トレーニング③	経絡弁証、六淫弁証、六経弁証について特徴を見つけることができる。
12	弁証論治トレーニング④	衛気營血弁証、三焦弁証について特徴を見つけることができる。
13	弁証論治トレーニング⑤	すべての知識を通じて弁証論治し、その病態について説明できる。
14	期末テスト	・期末試験にて弁証論治できる
15	解説	・弱点を見つけ克服することができる

〔成績評価について〕

中間試験 50点
期末試験 50点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

経絡経穴概論にて、流注 五要穴 五行穴について復習しておくこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講区分 後期	担当教員 酒井 大輝
授業科目名 はりきゅう治効理論	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1) 授業回数 15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、「鍼灸がなぜ効くのか」についてわかりやすく一般の方にも説明ができるようになるため、授業を展開する。東洋医学とともに発展してきた鍼灸という治療法は西洋医学的な医療従事者と相いれないと考えられてきたが、最近では西洋医学的なエビデンスの獲得が進み、さらに面白い治療になってきたと感じる。その理論を理解することで治療の幅が広がるため、進んで勉強してもらいたい。

〔到達目標〕

なぜ鍼灸治療が効果があるのかの生理学的作用を勉強し理解した後、自分で体験し言語化できるようになってもらう。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう理論[医道の日本社]

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 2.生体の調節 1)運動の調節	運動調節の生理学が理解できる。
2	第8章 2) 内臓の調節	自律神経の生理学が理解できる。
3	第8章 3)感覚	神経線維と伝導路について理解できる。
4	第8章 4)熱傷	熱傷と炎症について理解できる。
5	第8章 5)体表の反応 8章テスト	トリガーポイントの特徴を理解できる。
6	第9章 鍼灸治効機序 全身性鎮痛	全身性鎮痛、特に下行性痛覚抑制系を理解できる。
7	第9章 鍼灸治効機序 脊髄分節性鎮痛 末梢性鎮痛	脊髄分節性鎮痛、末梢性鎮痛を理解できる。
8	下行性痛覚抑制系の復習 鍼通电の体験	下行性痛覚抑制系が理解できる。高頻度の鍼通电を体験する。
9	鎮痛小テスト 第9章 鍼灸治効機序 循環系と鍼灸	軸索反射を理解することができる。
10	第9章 鍼灸治効機序 消化器系と鍼・泌尿器系と鍼・リラクゼーションと鍼灸	消化管運動・下部尿路機能に鍼が及ぼす影響について理解できる。
11	第9章 生体防御系と鍼灸・第10章 鍼灸治効機序と臨床の接点	消化管運動・下部尿路機能に鍼が及ぼす影響について理解できる。
12	10章 鍼灸治効機序と臨床の接点 関連学説 8章復習 循環・消化器小テスト	関連学説を想像する。また8章の範囲を理解できる。
13	循環系・運動系・消化器系・泌尿器系・リラクゼーション・生体防御の復習	第9章 第10章の復習を行い、特に重要な範囲を理解することができる。
14	期末試験	鍼灸刺激の治効理論を理解できる 確認テストにより第8.9.10章の理解度を確認できる
15	期末試験 解答・解説 国試問題解説	期末試験の解答解説を行い、苦手な範囲を復習することができる。

〔成績評価について〕

評価はFormsで行う。
確認テスト(30点分)、課題(10点)、筆記試験(60点分)の合計100点で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員 進藤 千聖				
授業科目名 東洋医学臨床論 I	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、臨床現場で遭遇する症候に対して西洋医学・投与医学両方の知識を使って病態把握するための方法を学ぶ。
特に、西洋医学ではいわゆるレッドフラッグを理解し、医療機関との連携を図れるような知識を養う。

[到達目標]

- ・各症候におけるレッドフラッグとそれに対する疾患名を理解する。
- ・東洋医学的な診察に基づき、基本的な病態把握が可能となる。

[使用教材、参考文献等]

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 東洋医学的な診断法の復習	成績の付け方について説明する。治療の原理原則・八綱弁証など東洋医学概論の復習をしていく。
2	東洋医学的な診断法の復習	症例を用いて気血津液弁証・臓腑弁証ができるようになる。
3	頭痛・顔面痛・歯痛	症例を用いて弁証・配穴ができるようになる。
4	痺証①	痺証にみられる証分類と疼痛部位に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
5	痺証②	痺証にみられる証分類と疼痛部位に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
6	痺証③	痺証にみられる証分類と疼痛部位に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
7	胸痛	胸痛にみられる証分類とそれぞれ各証に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
8	確認試験 腹痛	確認試験後にフィードバック
9	腹痛	腹痛にみられる証分類とそれぞれ各証に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
10	食欲不振	食欲不振にみられる証分類とそれぞれ各証に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
11	肥満と痩せ	肥満や痩せにみられる証分類とそれぞれ各証に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
12	悪心嘔吐	悪心嘔吐にみられる証分類とそれぞれ各証に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
13	便秘	便秘にみられる証分類とそれぞれ各証に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
14	下痢	下痢にみられる証分類とそれぞれ各証に対する治療穴、及び治療穴の使用理由について学習する。
15	期末試験	確認試験後にフィードバック

[成績評価について]

確認試験、期末試験、課題レポートで評価する。
期末試験50点、確認試験30点、課題20点

[特記事項・授業時間外における学習]

授業前後に配信する予習・復習ツールを活用し、東洋医学概論で履修した内容をブラッシュアップしてほしい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員 進藤 千聖				
授業科目名 東洋医学臨床論Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、臨床現場で遭遇する症候に対して西洋医学・投与医学両方の知識を使って病態把握するための方法を学ぶ。
特に、西洋医学ではいわゆるレッドフラッグを理解し、医療機関との連携を図れるような知識を養う。

〔到達目標〕

- ・各症候におけるレッドフラッグとそれに対する疾患名を理解する。
- ・東洋医学的な診察に基づき、基本的な病態把握が可能となる。

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第1章 総論、第2章 各論「眼精疲労」	東洋医学概論を学び終え、更なるステップアップのための東洋医学臨床論を学ぶための導入部分の理解ができる。
2	各論「気分障害(うつ状態)」、「めまい」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
3	各論「めまい」、「動悸・息切れ」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
4	各論「動悸・息切れ」、「血圧異常」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
5	各論「血圧異常」、「睡眠障害」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
6	各論「睡眠障害」、「咳嗽と喀痰」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
7	各論「咳嗽と喀痰」、「呼吸困難」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
8	各論「鼻閉・鼻汁」、「脱毛症」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
9	確認テスト	ここまでの復習を兼ねた確認テストの実施
10	各論「脱毛症」、「耳鳴り・難聴」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
11	各論「耳鳴り・難聴」、「排尿障害」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
12	各論「排尿障害」、「ED」	それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。
13	テストに向けての対策と復習	ポイントをおさえてテストクリアできるように復習する。
14	確認テスト	東洋医学臨床論の総復習としてのテストをする。習熟度をチェックしてみる。
15	確認テスト返却と解答	テストの見直しと確認

〔成績評価について〕

確認試験、期末試験、課題レポートで評価する。
期末試験50点、確認試験30点、課題20点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業前後に配信する予習・復習ツールを活用し、東洋医学概論で履修した内容をブラッシュアップしてほしい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	2	開講区分	前期	担当教員 深山 俊			
授業科目名 病態生理学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

鍼灸師として地域住民の健康増進に貢献している教員が、現代西洋医学をベースに病態把握・鑑別をするために必要な知識を習得するための授業を行なう。
座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。また統合医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。

[到達目標]

臨床医学総論や臨床医学各論の知識に肉付けし、臨床科目の理解を促すことを目的として、病態把握、鑑別の必要性を理解し、重篤な疾患や緊急を要する病態を見落とさないための知識を習得することを目標とする。

[使用教材、参考文献等]

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	病態生理とは 痛みとは	病態生理について理解できる。痛みの分類を理解できる。
2	痛みとは	痛みの発生機序を理解できる。
3	<痛み 小テスト>消化管疾患の病態生理	消化器疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。 <確認テスト>
4	消化管疾患の病態生理	消化器疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。
5	<消化管 小テスト>下痢・便秘の病態生理	下痢・便秘の病態生理、臨床症状について、理解できる。 <確認テスト>
6	下痢・便秘の病態生理<下痢・便秘小テスト>	下痢・便秘の病態生理、臨床症状について、理解できる。
7	確認テスト	確認テスト
8	<各疾患の病態生理>発表デモ	発表に向けて流れを理解する。
9	<各疾患の病態生理>発表準備	発表準備
10	<各疾患の病態生理>発表準備	発表準備
11	<各疾患の病態生理>発表準備	発表準備
12	<各疾患の病態生理>発表準備	発表準備
13	<各疾患の病態生理>発表準備	発表準備
14	<各疾患の病態生理>発表	発表
15	<各疾患の病態生理>発表	発表

[成績評価について]

評価は筆記試験とグループ発表で行う。筆記試験は小テスト(5×3=15点)、確認テスト25点、グループワーク(姿勢や内容で60点)で評価する。

[特記事項・授業時間外における学習]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。発表に関して、各々が積極的にグループワークに参加し、誰でも発表できる準備をしておくこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講区分 前期	担当教員 柏崎 雅大
授業科目名 検査測定学	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1) 授業回数 15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、必要な疾患の概念を指導し、適切な検査を習得するための授業を行なう。応用技術習得と並行し、現場で通用するような基礎技術の向上が目的にある為、現場で必要とされる技術を身に付けられるよう授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

腱反射の意義を理解し、速やかに検査できる。血圧測定の意義を理解し、速やかに測定ができる。全身の徒手検査法を理解・習得し、模擬患者に実施できる。ROM測定の意義を理解し、速やかに測定ができる。MMT検査の意義を理解し、速やかに検査できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸臨床BOOK□

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	徒手検査法①	頸部、上肢の徒手検査法を理解・習得し、模擬患者に実施できる。
2	徒手検査法②	腰部、下肢の徒手検査法を理解・習得し、模擬患者に実施できる。
3	徒手検査法③	全身の徒手検査法を復習し、修得できる。
4	徒手検査法④	各徒手検査法の重点項目を理解し、
5	徒手検査法 試験	試験により徒手検査法の理解を確認し、未修得箇所を確認できる。
6	ROM測定①	ROM測定の意義を理解し、ゴニオメーターの基本的な扱いを習得できる。
7	ROM測定②	頭頸部、上肢のROM測定の意義を理解し、速やかに測定ができる。
8	ROM測定③	腰部、下肢のROM測定の意義を理解し、速やかに測定ができる。
9	ROM測定④	全身のROM測定を復習し、修得する。
10	ROM測定 試験	試験によりROM測定の理解を確認し、未修得箇所を確認できる。
11	腱反射の検査	腱反射の意義を理解し、速やかに検査できる。
12	MMT検査①	MMT検査の意義を理解し、基本的な計測法と注意点を理解できる。
13	MMT検査②	頭頸部、体幹部、四肢のMMT検査の意義を理解し、速やかに測定ができる。
14	総合診察訓練①	想定した患者モデルに対し、聴取内容から総合的に判断し検査を選択できる。
15	総合診察訓練②	想定した患者モデルに対し、聴取内容から総合的に判断し検査を実施・記録ができる。

〔成績評価について〕

評価は実技試験で行う。
実技試験は確認テストと期末テストの合計100点
で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。
難しい手技や疾患の不明点があれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員 酒井 大輝			
授業科目名 社会あはき学Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、多様な臨床現場でのあはき師の業務・役割について教授する。
また、鍼灸師の新たな働き方や分野の創造、はりきゅう経営に関わる経営学を講義・ワーク形式で行う。

[到達目標]

1年次に学んだ社会あはき学の内容を踏まえ、様々な現場で活動する鍼灸師の仕事・役割をすることで、自身の将来像をより明確に出来る。
独立開業権を有する鍼灸師として、治療院経営をイメージできる。

[使用教材、参考文献等]

社会あはき学

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	鍼灸師としての活躍の場①	あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。
2	鍼灸師としての活躍の場②	あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。
3	鍼灸師としての活躍の場③	あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。
4	鍼灸師としての活躍の場④	あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。
5	アイデアの想像	鍼灸の可能性を確認し、自分のやりたいことを言語化する事ができる。
6	アイデアの発表	言語化したアイデアを理解し、発表することができる。
7	グループワーク(プレスト)	グループに分かれて意見を集約。ビジネスの想像をすることができる。
8	グループワーク(サービス)	グループに分かれて誰の、何の課題を解決するのかを考え、資料に落とし込むことができる。
9	グループワーク(市場調査)	グループに分かれて、やりたいビジネスの市場調査を行い、資料に落とし込むことができる。
10	グループワーク(マネタイズ)	グループに分かれて、どのようにお金をもらうのかを考え、資料に落とし込むことができる。
11	グループワーク(損益計算書)	グループに分かれて、損益計算書を作成することができる。
12	グループワーク(事業計画)	グループに分かれて、簡易的に事業計画を作成することができる。
13	グループワーク(まとめ)	グループに分かれて、発表の準備を行い、資料を完成させられる。
14	期末試験(発表)	グループで作成した成果物を発表することができる。
15	期末試験(発表)	グループで作成した成果物を発表することができる。

[成績評価について]

評価は授業内で行うワークでの成果物と発表にて行う。

[特記事項・授業時間外における学習]

必要に応じてプリントを配布する。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講区分 前期	担当教員 酒井 大輝 / 森 大輔		
授業科目名 応用はり実技	必修・選択 必修	授業形態 実習	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15	

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。大関節を中心に主要な筋肉・靭帯への刺鍼・通電を行う。また、整形外科的疾患や内科疾患の理解と臨床での応用を学び、最終学年になる心構えを身に着ける。

〔到達目標〕

上下肢のメジャーな筋肉の触察をし、通電ができる。また、指示された部位に指示された深度・角度で刺入することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

配布資料・ずっと使える！鍼灸臨床BOOK

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	ガイダンス	この授業の方針を理解し、直刺・斜刺の技術確認ができる。
2	横刺の練習	横刺の方法を知り、実施することができる。
3	技術確認	直刺・斜刺・横刺の練習を行い、試験に向けて準備ができる。
4	試験	直刺・斜刺・横刺の効果測定を行い、自分の課題を明確にする。
5	練習	試験のフィードバックを受けて、修正することができる。
6	下肢の通電①腓腹筋・ヒラメ筋	腓腹筋・ヒラメ筋の触察および通電ができる。
7	下肢の通電②前脛骨筋・長趾伸筋	前脛骨筋・長趾伸筋の触察および通電ができる。
8	下肢の通電③長・短腓骨筋	長・短腓骨筋の触察および通電ができる。
9	下肢の通電④大腿四頭筋	大腿四頭筋の触察および通電ができる。
10	下肢の通電⑤ハムストリングス	ハムストリングスの触察および通電ができる。
11	下肢の通電 総復習	下肢の筋肉の復習を行い、通電することができる。
12	下肢 試験	試験のフィードバックを受けて、修正することができる。
13	上肢の通電①長橈側手根伸筋・総指伸筋	長橈側手根伸筋と総指伸筋の触察および通電ができる。
14	上肢の通電②橈側手根屈筋・円回内筋	橈側手根屈筋と円回内筋の触察および通電できる。
15	上肢の通電③上腕二頭筋・上腕三頭筋	上腕二頭筋・上腕三頭筋の触察および通電できる。

〔成績評価について〕

実技評価にて確認試験を行う。実技試験は確認試験と期末試験の合計100点で評価する。評価については学則規定に準じる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

自宅では練習できない範囲があるため、実技室開放などの場を有効活用して取り組み、疾患に対しての勉強は自宅ですべて予習・復習を行う。また、鍼を扱うことを軽んじることなく、責任感をもって授業に臨む。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員 酒井 大輝 / 森 大輔				
授業科目名 応用はり実技	必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。大関節を中心に主要な筋肉・靭帯への刺鍼・通電を行う。また、整形外科的疾患や内科疾患の理解と臨床での応用を学び、最終学年になる心構えを身に着ける。

[到達目標]

上下肢のメジャーな筋肉の触察をし、通電ができる。また、指示された部位に指示された深度・角度で刺入することができる。

[使用教材、参考文献等]

配布資料・ずっと使える！鍼灸臨床BOOK

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	上肢の通電④三角筋	三角筋の触察および通電できる。
2	上肢の通電⑤ローテーターカフ	ローテーターカフの触察および通電できる。
3	上肢の通電⑥僧帽筋	僧帽筋のつまみ押手と通電できる
4	上肢の通電 総復習	上肢の筋肉の復習を行い、通電することができる。
5	上肢 試験	試験のフィードバックを受けて、修正することができる。
6	上肢のデルマトーム	上肢デルマトームを理解できる。
7	頰椎症	頰椎症の病態を把握し、適切な治療ができる。
8	下肢のデルマトーム	下肢デルマトームを理解できる。
9	腰痛・腰椎椎間板ヘルニア	腰痛・ヘルニアの病態を把握し、適切な治療ができる。
10	肉離れ①	肉離れの病態を把握し、適切な治療ができる。
11	肉離れ②	肉離れの病態を把握し、適切な治療ができる。
12	肩関節周囲炎①	肩関節周囲炎の病態を把握し、適切な治療ができる。
13	肩関節周囲炎②	肩関節周囲炎の病態を把握し、適切な治療ができる。
14	試験	問題文を読み、その症状に適したデルマトームの絵と刺鍼の試験を行うことができる。
15	試験	症例検討を行い、適切な筋肉を選び、適切な深度・角度で刺鍼することができる。

[成績評価について]

実技評価にて確認試験を行う。実技試験は確認試験と期末試験の合計100点で評価する。評価については学則規定に準じる。

[特記事項・授業時間外における学習]

自宅では練習できない範囲があるため、実技室開放などの場を有効活用して取り組み、疾患に対しての勉強は自宅ですり復習を行う。また、鍼を扱うことを軽んじることなく、責任感をもって授業に臨む。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員 東 路子 / 岩井 李恩			
授業科目名	応用はりきゆう実技		必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、東洋医学的身体診察の基礎を身につけることを目的とし、紙上施術や自分カルテによる体質診断から始め、虚実・表裏・寒熱の鑑別を中心に、問診、脈診、舌診、切経を段階的に学び、診察結果を統合して考える力を養う。また、足・手の三陰三陽経の取穴と切経による治療を通して、正確な取穴と安全な鍼操作を習得する。実務経験を有する教員が、臨床での判断や注意点を交えながら、基本的に忠実な診察・治療の流れを指導する。□

〔到達目標〕

前期終了時には、東洋医学に基づく身体診察の基本的な考え方を理解し、虚実・表裏・寒熱の鑑別を問診・脈診・舌診・切経を用いて行うことができる。また、足・手の三陰三陽経について、主要な経絡走行を把握し、安全かつ正確に取穴し、切経を用いた基礎的な治療を実施できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸臨床Book

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション・紙上施術・自分カルテ(体質診断)	授業目的と安全管理を理解し、紙上施術と自分カルテで体質と診療思考を把握できる。
2	虚実の鑑別のための問診＋鍼の補瀉①	虚実鑑別に必要な問診を行い、基本的な鍼の補瀉を安全に実践できる。
3	虚実の鑑別のための問診＋鍼の補瀉②	虚実鑑別に必要な問診を行い、基本的な鍼の補瀉を安全に実践できる。
4	表裏・寒熱のための問診＋脈診①	表裏・寒熱鑑別のための問診を行い、脈診の基本動作を実践できる。
5	表裏・寒熱のための問診＋脈診②	表裏・寒熱鑑別のための問診を行い、脈診を判別につなげることができる。
6	舌診、問診＋脈診での体質診断＋切経	舌診を観察し、問診・脈診から体質を捉え、切経を実践できる。
7	足の三陰経取穴＋切経での治療	足の三陰経を正確に取穴し、切経を用いた基礎的な治療を実践できる。
8	足の三陽経取穴＋切経での治療	足の三陽経を正確に取穴し、切経を用いた基礎的な治療を実践できる。
9	足の経絡の取穴の確認＋治療	足の経絡を正確に取穴し、切経を用いた基礎的な治療を実践できる。
10	手の三陰経取穴＋切経での治療	手の三陰経を正確に取穴し、切経を用いた基礎的な治療を実践できる。
11	手の三陽経取穴＋切経での治療	手の三陽経を正確に取穴し、切経を用いた基礎的な治療を実践できる。
12	手の経絡の取穴の確認＋治療	手の経絡を正確に取穴し、切経を用いた基礎的な治療を実践できる。
13	試験	東洋医学的診察方法と取穴について、課題に基づき実行できる。
14	問診から診察、治療	問診から診察までを行い、東洋医学的判断に基づく鑑別、治療を実践できる。
15	問診から診察、治療	問診から診察を行い、得られた情報をもとに治療を実践できる。

〔成績評価について〕

実技にて評価を行う

- ① ルーブリック評価 80点
- ② 紙上施灸 80点
- ③ 評価試験 80点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

評価①ルーブリック評価

3点 × 7クール = 21点 □

カルテ提出: 4点 × 2回 = 8点 □

自己評価(最終分析): 1点 □

評価②全6回実施、50壮紙・10分(実施回: 6、11、16、21、26、30) □

基本評価: 5点(穴なし45壮以上)、4点(40壮以上)、0点(40壮未満) □

50壮以上の場合: 穴あき率で評価(10%以内→5点、20%以内→4点)

評価③ 授業内で告知 □

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	後期	担当教員	
授業科目名	応用はりきゅう実技		必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)
							授業回数	15
							東 路子 / 岩井 李恩	

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、腹診・背候診、吸い玉、灸頭鍼、知熱灸などの診察・治療技術を学び、適応と禁忌を理解した上で安全に実施できる力を養う。問診から診察、治療までを一連の流れとして繰り返し実践し、臨床を想定した治療構成力を高める。また、東洋医学治療の総合的理解を深め、試験前練習やフィードバックを通して自己の課題を明確にする。学生が施術者としての自覚と責任を持ち、確実に丁寧な診察・治療を行えるよう指導する。□

〔到達目標〕

後期終了時には、腹診・背候診を含む総合的な身体診察を行い、問診から診察、治療までを一連の流れとして構成・実施できる。吸い玉、灸頭鍼、知熱灸などの治療技術について、適応・禁忌を理解した上で安全に施術できる。また、東洋医学的視点から病態を把握し、複数の情報を統合して治療内容を判断できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸臨床Book

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	腹診、背候診＋吸い玉	腹診・背候診および吸い玉の安全な手技と基本操作を理解し、正しく実践できる。
2	腹診、背候診＋吸い玉	ペアを対象に腹診・背候診を行い、吸い玉を安全に実施できる。
3	腹診、背候診＋吸い玉	腹診・背候診の結果をもとに診断し、治療として吸い玉を実践できる。
4	灸頭鍼、知熱灸	灸頭鍼・知熱灸の適応と禁忌を理解し、安全な操作と基本手技を実践できる。
5	灸頭鍼、知熱灸	ペアを対象に、灸頭鍼・知熱灸を安全に実施し、温熱刺激を適切に調整できる。
6	灸頭鍼、知熱灸	診察結果をもとに灸頭鍼・知熱灸を選択し、治療として実践できる。
7	東洋医学治療のオリエン	東洋医学治療の進め方と考え方を理解し、総合実技に臨む準備ができる。
8	東洋医学治療①	問診と身体診察の結果をもとに、東洋医学的治療を構成し実践できる。
9	東洋医学治療②	問診・身体診察をもとに、東洋医学的治療方針を立てて実践できる。
10	東洋医学治療③	診察結果を統合し、経絡・手技を選択した治療を実践できる。
11	東洋医学治療④	施術中・施術後の変化を確認し、治療内容を調整できる。
12	東洋医学治療⑤	診断から治療までを一人で構成し、安全に総合的治療を実践できる。
13	試験前練習日	試験を想定し、診察・治療の手順を確認しながら実践できる。
14	試験日	課題に対し、東洋医学的診察を行い、選穴と治療手技を選択し実行できる。
15	フィードバックの日	試験のフィードバックを受け、自身の不足点を把握し技術を確認できる。

〔成績評価について〕

- 実技にて評価を行う
- ① ルーブリック評価80点
 - ② 紙上施灸80点
 - ③ 評価試験80点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

- 評価①ルーブリック評価
 3点 × 7クール = 21点 □
 カルテ提出: 4点 × 2回 = 8点 □
 自己評価(最終分析): 1点 □
 評価②全6回実施、50壮紙・10分(実施回: 6、11、16、21、26、30) □
 基本評価: 5点(穴なし45壮以上)、4点(40壮以上)、0点(40壮未満) □
 50壮以上の場合: 穴あき率で評価(10%以内→5点、20%以内→4点)
 評価③ 授業内で告知 □

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	認定実技(OSCE) II		必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

臨床現場で様々な患者に関わってきた教員が、臨床実習に臨むために医療人としてふさわしい技術・知識を身につけるための講義を行う。

〔到達目標〕

客観的臨床能力試験に向けたコミュニケーション技法を把握できる。
医療人として必要とされる技術・知識を理解できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸臨床BOOK

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	実習前教育 実習概要説明、紹介書の作成①	実習概要を理解し、実習教育に必要な準備について理解できる。
2	マナー教育、個人情報の取扱い、紹介書の作成②	実習生に求められるマナーを理解し、身だしなみや態度に留意し、実習教育に必要な準備物を作成するとともに、個人情報取り扱いの注意点を正しく理解できる。
3	東洋系模擬試験	実習前の学習理解度確認のための試験を通して、東洋医学的評価のための知識を確認できる。
4	東洋系模擬試験	実習前の学習理解度確認のための試験を通して、東洋医学的評価のための知識を確認できる。
5	実習前教育 治療院実習の手引き	学校附属鍼灸院の実習における基本的準則を理解できる。
6	実習前教育 リスク管理	医療現場におけるリスクファクターと対策を知るとともに、インシデントレポートの意義・書き方を理解できる。
7	医療面接の概要	医療面接における聴取事項と面接者としての配慮を理解できる。SOAP形式による記載事項を理解できる。
8	医療面接のロールプレイ	医療面接に必要な項目を聴取し、メモを取ることができる。
9	医療面接のロールプレイ	医療面接に必要な項目を聴取し、整理してメモを取ることができる。
10	医療面接のロールプレイ	医療面接に必要な項目を聴取し、メモを取り要約して伝えることができる。
11	医療面接試験	医療面接のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。
12	客観的臨床能力評価試験①	miniOSCEの実施により、医療面接と検査法の情報をまとめる能力を獲得できる。
13	客観的臨床能力評価試験②	miniOSCEの実施により、医療面接と検査法の情報をまとめる能力を獲得できる。
14	客観的臨床能力評価試験フィードバック	miniOSCEの結果フィードバックを受け、修得すべき臨床能力の理解を深められる。
15	実習教育総括	実習教育により培った知識・技能・態度を振り返り、実習生としての自らの課題を抽出できる。

〔成績評価について〕

評価は医療面接による確認テストとminiOSCEによる評価の合計100点で行なう。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

学生は実習を受けさせていただくにあたり、対人におけるマナー、礼節、リスク管理、時間管理を疎かにしてはならない。効果的な実習体験ができるよう、どのような行動を取るべきかを常に考え、分からない事や知りたい事は自らアドバイスを求めること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 2	開講区分 前期	担当教員 鳥海 崇		
授業科目名 臨床実習 I	必修・選択 必修	授業形態 実習	時間数(単位) 90(2)	授業回数 —	

[授業の学習内容と心構え]

5年以上開業ならびに5年以上の臨床経験を持ち、講習会を受講しているまたは専任教員資格を有する実習指導者が鍼灸師のスペシャリストを目指すために患者接遇や院内コミュニケーションの重要性を取得する実習を行なう。鍼灸師としてのやりがいや重要性を見つけ、専門職として必要なことは何かを考えながら実習してほしい。実習となるため、報告・連絡・相談を忘れず実習に臨んでほしい。

[到達目標]

挨拶・言葉遣い・身だしなみ等、鍼灸施術所で必要なコミュニケーションができる。院内業務を理解し、実習指導者に適切な質問ができる。デイリーノートをしっかりと記載し、自身の課題を把握できる。

[使用教材、参考文献等]

デイリーノート

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
2	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
3	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
4	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
5	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
6	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
7	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
8	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
9	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
10	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
11	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
12	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
13	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
14	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
15	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける

[成績評価について]

評価は別途評価表で行なう。評価は現場実習評価、レポート・実習後評価の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

通常授業とは異なる外部での実習となるため、緊急事項に関しては必ず指導者と学校に連絡をすること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	2	開講区分	前期	担当教員 櫻井恵司 / 進藤千聖			
授業科目名 総合学習	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

NSCA-CSCS/CPT、鍼灸マッサージ師の資格を持ち、20年以上の教員経験がある開業鍼灸師・パーソナルトレーナーが、レジスタンストレーニングテクニック、及びプログラムデザインに関する基礎的な知識・技術を習得する授業を行う。解剖学で習得した運動器について、理解を深め、鍼灸の施術やトレーニング指導に活用できるようになる。

〔到達目標〕

肩関節、股関節の機能解剖を理解し、レジスタンストレーニングの主要種目の目的やフォームを身につける。また、プログラムデザインの方法を理解することで、レジスタンストレーニングのプログラム作成を習得する。

〔使用教材、参考文献等〕

授業は配布資料を使用

〔参考図書〕NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識【第3版】

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	【教室】オリエンテーション、肩甲骨複合体と股関節の作用 RTテクニック	肩甲骨複合体と股関節の動きをできる説明。 グリップの種類、5ポイントコンタクトを説明できる。
2	【教室】BIG3フォーム RTテクニック	BIG3の正しいフォームと良くある間違いを説明できる。 筋の活動様式、呼吸、補助を説明できる。
3	【ジム】BIG3実技	BIG3を実際に行うことができる。
4	【ジム】BIG3実技 胸部のトレーニング種目	正しいフォームを考慮して、BIG3を行うことができる。 DP、DF、IDPのフォームを理解できる。
5	【ジム】BIG3実技 脚部のトレーニング種目	正しいフォームを考慮して、BIG3を行うことができる。 Bスクワット、レッグEX、レッグカールのフォームを理解できる。
6	【教室】確認テスト 背部のトレーニング種目、プログラムデザイン	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 ラットプルダウン、ベントロウ、ダンベルロウのフォームを理解できる。 トレーニング原理を説明できる。
7	【ジム】胸・脚・背部の主な種目の確認 グループで胸・脚部・背部のうち1部位のトレーニング	グループで協力して、各種目を行うことができる①
8	【ジム】プログラムデザイン グループで胸・脚部・背部のうち1部位のトレーニング	グループで協力して、各種目を行うことができる② 頻度とエクササイズ種目を説明できる。
9	【ジム】プログラムデザイン グループで胸・脚部・背部のうち1部位のトレーニング	グループで協力して、各種目を行うことができる③ エクササイズの順番を説明できる。
10	【教室】プログラムデザイン 肩・腕部のトレーニング種目	トレーニング負荷を説明できる。ショルダープレス、ラテラルレイズ、パイセップスカール、トライセップスEXなどの正しいフォームを理解できる。
11	【ジム】肩・腕の主な種目の確認 グループで胸・脚部・背部のうち1部位のトレーニング	グループで協力して、各種目を正しく行うことができる①
12	【ジム】プログラムデザイン グループで胸・脚部・背部のうち1部位のトレーニング	グループで協力して、各種目を正しく行うことができる② 目標に応じた負荷設定、段階的負荷設定を説明できる。
13	【ジム】期末試験(プログラムデザイン中心) グループで胸・脚部・背部のうち1部位のトレーニング	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 グループで協力して、各種目を正しく行うことができる③
14	歩行バイオメカニクスと臨床応用	歩くを機能面から分析すること、歩くことが様々な運動の基礎であることが理解できます。またセンシングインソールを紹介し歩行分析の有用性についての理解することができます。インソールの設計や施術方針への応用について知ることができます。
15	学生スポーツ障害に多いオスグッドの臨床	学生スポーツで起こる故障によって、夢や目標をあきらめてしまう子供たちがたくさんいます。今回は成長期に起こるオスグッドを最速で改善させる処置や施術方法について理解することができます。将来の子供たちを救える施術者になれます。

〔成績評価について〕

評価は実技授業20点(2×9+2)、確認試験(30点)・期末試験(40点)の計100点で行う。
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

解剖学の運動器について復習し、授業に臨むこと。
実技は危険を伴うため、集中して参加すること。
グループで協力しながら、各自が正しいフォームを身につけることができるように努力すること。

トレーニング経験者、トレーナー資格取得者は、グループでリーダーシップを取り、積極的に初心者へ指導すること

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース			開講区分	前期	担当教員				
授業科目名	学年	2	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
総合学習										

〔授業の学習内容と心構え〕

NSCA-CSCS/CPT、鍼灸マッサージ師の資格を持ち、20年以上の教員経験がある開業鍼灸師・パーソナルトレーナーが、レジスタンストレーニングテクニック、及びプログラムデザインに関する基礎的な知識・技術を習得する授業を行う。解剖学で習得した運動器について、理解を深め、鍼灸の施術やトレーニング指導に活用できるようになる。

〔到達目標〕

肩関節、股関節の機能解剖を理解し、レジスタンストレーニングの主要種目の目的やフォームを身につける。また、プログラムデザインの方法を理解することで、レジスタンストレーニングのプログラム作成を習得する。

〔使用教材、参考文献等〕

授業は配布資料を使用

【参考図書】NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識【第3版】

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	脊椎とパフォーマンスの関係と臨床	私たち人類にとって脊椎は非常に重要であり、多くの臨床において重要な施術ポイントになります。スポーツにおいても脊椎の可動性がパフォーマンスへ影響します。生後からの脊椎の変化、姿勢の変化と重要筋群を理解して、体幹部分への施術手技の習得を目指します。
2	神経からみる不調と臨床	現代社会はストレス社会と言われ、痛みや不定愁訴を訴える方が多くいます。その不調と神経の関係を理解し施術へ応用することで、ケガや病気の予防への施術の有効性を理解できます。
3	女性の体と女性疾患の臨床	女性は妊娠出産をする構造であるためホルモンバランスの影響を多く受けます。女性のお悩みが起こるメカニズムを理解、鍼灸による不定愁訴の改善について理解できます。
4	鍼灸師が未来社会における可能性と役割	テクノロジーが超速で進化する現代社会において5年後・10年後の未来社会をイメージすることは非常に重要です。この会では、“今”ではなく“未来”における鍼灸師としての活躍のステージや価値を見出すことを目的に、一緒に創造していきましょう。
5	物理療法と鍼灸治療の親和性	物理療法の種類を学ぶ
6	BLS	学課講習
7	BLS	学課講習
8	BLS	傷病者程度の区分
9	BLS	レサシテーションマスクでの人工呼吸
10	BLS	小児乳児BLS、運搬法
11	BLS	BLS問題
12	BLS	感染対策BLS
13	BLS	一連の流れを評価する
14	職業倫理と系統解剖①	解剖見学にあたり命の尊さや献体への感謝の気持ちが持てる。
15	職業倫理と系統解剖②	解剖見学にあたり命の尊さや献体への感謝の気持ちが持てる。

〔成績評価について〕

評価は実技授業20点(2×9+2)、確認試験(30点)・期末試験(40点)の計100点で行う。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

解剖学の運動器について復習し、授業に臨むこと。
 実技は危険を伴うため、集中して参加すること。
 グループで協力しながら、各自が正しいフォームを身につけることができるように努力すること。
 トレーニング経験者、トレーナー資格取得者は、グループでリーダーシップを取り、積極的に初心者へ指導すること

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	前期	担当教員		鈴木 勇氣	
授業科目名	総合スポーツ演習 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

プロスポーツ現場で約10年間トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場としてトレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいた知識・技術・経験を含めた授業を展開する。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔到達目標〕

プロスポーツの現場で約10年トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場として、トレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいたかたちでトレーナーの知識・技術・経験などを学ばせていく。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるように、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔使用教材、参考文献等〕

テーピングのポイントはこれだ！（滋慶出版）、スポーツ外傷・障害の理学診断理学療法ガイド、スポーツ外傷・障害に対する術後の

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	講義の概要とスポーツ外傷について	スポーツ外傷の基礎的な内容が理解できる。
2	足関節・足部の外傷と評価	足関節・足部の外傷と評価方法が理解できる。
3	足関節・足部の外傷における治療と運動療法	足関節・足部における治療と運動療法が理解できる。
4	部位別ケーススタディ(足関節捻挫)	足関節捻挫におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
5	膝関節の外傷と評価	膝関節の外傷と評価方法が理解できる。
6	膝関節の外傷における治療と運動療法	膝関節外傷における治療と運動療法が理解できる。
7	膝の構造と内側側副靭帯に対するテーピング①	膝の構造を理解し、内側側副靭帯損傷に対するテーピングができる。
8	膝の構造と前十字靭帯に対するテーピング②	膝の構造を理解し、前十字靭帯損傷に対するテーピングができる。
9	膝の構造と各靭帯に対するテーピングの確認テスト(実技)	内側側副靭帯損傷もしくは前十字靭帯損傷に対するテーピングを理解できているか確認テストを行なう。
10	部位別ケーススタディ(前十字靭帯損傷)	膝前十字靭帯損傷におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
11	肉離れの概要と評価	肉離れの概要と評価方法が理解できる。
12	肉離れにおける治療と運動療法	肉離れにおける治療と運動療法が理解できる。
13	肉離れとテーピング	肉離れの概要を理解し、必要なテーピングができる。
14	股関節周囲筋(内転筋、ハムストリングス、大腿四頭筋)群の肉離れ評価の確認テスト(実技)	股関節周囲筋(内転筋、ハムストリングス、大腿四頭筋)群の肉離れ評価を理解できているか確認テストを行なう。
15	期末試験	筆記テストにより知識のアウトプットをする。

〔成績評価について〕

評価は確認テストと筆記試験などにより採点を行い、合計100点で評価する。実技確認テストは、各20点満点とし、筆記試験は60点満点とする。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	総合スポーツ演習 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

プロスポーツ現場で約10年間トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場としてトレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいた知識・技術・経験を含め授業を展開する。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔到達目標〕

プロスポーツの現場で約10年トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場として、トレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいたかたちでトレーナーの知識・技術・経験などを学ばせていく。トレーナー現場での中・高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるように、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔使用教材、参考文献等〕

テーピングのポイントはこれだ！（滋慶出版）、スポーツ外傷・障害の理学診断理学療法ガイド、スポーツ外傷・障害に対する術後のリ

回	〔授業单元〕	到達目標(できるようになること)
1	肩関節の外傷と評価	肩関節の外傷と評価方法が理解できる。
2	肩関節の外傷における治療と運動療法	肩関節外傷における治療と運動療法が理解できる。
3	肩関節前方脱臼及び肩鎖関節脱臼に対するテーピング	肩関節の機能を理解し肩関節前方脱臼もしくは肩鎖関節脱臼のテーピングができる。
4	肩関節に対するテーピングの確認テスト(実技)	肩関節前方脱臼もしくは肩鎖関節脱臼に対するテーピングを理解できているか確認テストを行なう。
5	部位別ケーススタディ(肩関節前方脱臼)	肩関節前方脱臼におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
6	肘関節の外傷と評価及び治療法	肘関節の外傷と評価や治療法が理解できる。
7	肘関節テーピング 注意事項の講義と実技	肘関節の機能を理解し肘関節のテーピングができる。
8	アキレス腱炎やアキレス腱断裂の評価及び治療法	アキレス腱断裂の評価や治療法が理解できる。
9	アキレス腱に対するテーピング	アキレス腱の機能を理解しアキレス腱のテーピングができる。
10	突き指の評価及び治療法	突き指の評価や治療法が理解できる。
11	頭・頸部外傷と評価	頭・頸部外傷と評価方法が理解できる。
12	部位別ケーススタディ(脳震盪)	脳震盪におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
13	各部位(肘、アキレス腱、突き指など)テーピングの確認テスト(実技)	各部位(肘、アキレス腱、突き指など)のテーピングを理解できているか確認テストを行なう。
14	成長期特有のケガの把握(オスグット、腰椎分離症、シーバー病など)	成長期特有のケガについて理解できる。
15	定期テスト	筆記テストで知識のアウトプットを行う。

〔成績評価について〕

評価は確認テストと筆記試験などにより採点を行い、合計100点で評価する。実技確認テストは、各20点満点とし、筆記試験は60点満点とする。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。